



5月は自転車月間



Union Cycliste Internationale Asia Tour Class 2.2

Tour of Japan 2024

5.19sun-5.26sun

REPORT



Tour of Japan 2024



Contents

実施概要・大会役員	2
大会総評	3
Team List	4
ステージ1 堺	6
ステージ2 JPF京都	8
ステージ3 いなべ	10
ステージ4 美濃	12
ステージ5 綿半 信州飯田	14

ステージ6 富士山	16	いなベクリッピング	30
ステージ7 市制施行70周年 相模原	18	美濃クリッピング	31
ステージ8 SPEEDチャンネル東京	20	綿半信州飯田クリッピング	32
競技結果	22	富士山クリッピング	33
広報ツール	24	市制施行70周年 相模原クリッピング	34
パブリシティ テレビ・ラジオ・雑誌	25	SPEEDチャンネル東京クリッピング	35
パブリシティ WEB	26	協賛社露出	36
告知会見クリッピング	27		
堺クリッピング	28		
JPF京都クリッピング	29	Official Photographers	田中苑子/社 啓

Outline of the Race 実施概要

- **名称** ツアー・オブ・ジャパン 2024 Tour of Japan 2024
クラス:UCIアジアツアー2.2 UCI Asia Tour 2.2
- **主催** 自転車月間推進協議会
- **主管** ツアー・オブ・ジャパン組織委員会
(事務局:一般財団法人日本自転車普及協会)
- **競技主管** 公益財団法人日本自転車競技連盟
- **後援** 自転車活用推進議員連盟/自転車活用推進本部/内閣府/総務省/文部科学省/経済産業省/国土交通省/消費者庁/東京都/品川区/大阪府/三重県/長野県/静岡県/神奈川県/公益財団法人JKA/健康日本21推進全国連絡協議会
- **協力** 堺市/京都府/京田辺市/精華町/いなべ市/岐阜県/美濃市/飯田市/小山町(静岡県駿東郡)/相模原市/東京港埠頭株式会社
- **特別協賛** 株式会社車両スポーツ映像(SPEEDチャンネル)
日本トーター株式会社(Tキヤリ)
- **協賛** 一般財団法人自転車産業振興協会/一般社団法人自転車協会/THULE/ヤマハ発動機株式会社/ガイドドリンコ株式会社/株式会社Champion System Japan/株式会社シマノ/マヴィックジャパン株式会社/ヒビノ株式会社/株式会社ゼンリン/株式会社NIPPO/株式会社キナン/株式会社NTN セールスジャパン/JA 共済連/井上ゴム工業株式会社/株式会社マトリックス/一般社団法人ツール・ド・九州/メリダジャパン株式会社/東京サンエス株式会社/Global Ride/株式会社オージーケーカプト/大分市・OITA サイクルフェス実行委員会/株式会社SUBARU/株式会社キャットアイ
- **ステージ協賛** 株式会社JPF(京都ステージ)
綿半ホールディングス株式会社(信州飯田ステージ)
株式会社 車両スポーツ映像(東京ステージ)
- **出場チーム** 全16チーム(海外6チーム/国内10チーム)
【海外6チーム】
トレンガヌ サイクリング チーム
ルージャイ インシュアランス
アスタナ カザクスタン ティベロップメント チーム
チーム プリッジレーン
セント バイラン
NIPPO・EF・マルティエグ
【国内10チーム】
JCL TEAM UKYO
キナンレーシングチーム
ヴィクトワール広島
マトリックス パワータグ
レバンテフジ静岡
愛三工業レーシングチーム
シマノレーシング
宇都宮ブリッツェン
日本ナショナルチーム
京都産業大学
- **チーム編成** 9名(選手6名/監督1名/メカニック1名/マッサー1名)
- **競技規則** UCI(国際自転車競技連合)規則及び本大会特別規則による
- **開催日程** 2024年5月19日(日)~5月26日(日)
【堺ステージ】 5/19(日)13:35 スタート
大仙公園周回コース 2.6km(個人タイムトライアル)
獲得標高 = 10m
【JPF京都ステージ】 5/20(月)9:45
普賢寺ふれあいの駅→けいはんなプラザ周回コース
<パレード6.6km> + <2.8km + 16.8km x 6周 = 103.6km>
獲得標高 = 1,836m



【いなべステージ】 5/21(火)9:30
阿下喜駅前→下野尻交差点→いなべ市梅林公園周回コース
<パレード3.1km> + <8.6km + 14.8km x 8周 = 127.0km>
獲得標高 = 1,650m

【美濃ステージ】 5/22(水)9:15
旧今井家住宅前→横越→美濃和紙の里会館前周回コース
<パレード4.0km> + <11.3km + 21.0km x 6周 = 137.3km>
獲得標高 = 1,218m

【綿半 信州飯田ステージ】 5/23(木)10:00
下久堅小学校グラウンド前→下久堅周回コース→下久堅小学校グラウンド前
<パレード1.7km> + <10.8km + 12.2km x 9周 + 0.3km = 120.9km>
獲得標高 = 2,580m

【富士山ステージ】 5/24(金)10:05
(セレモニーラン7.2km:富士スピードウェイ西ゲート→富士スピードウェイレーシングコース→富士スピードウェイ西ゲート)
富士スピードウェイ西ゲート→東京五輪タイムトライアルコース→須走本町交差点→ふじあざみライン→富士山須走口五合目
<パレード3.7km> + <7.8km + 11.5km x 3周 + 7.6km + 16.7km = 66.6km>
獲得標高 = 2,347m

【市制施行70周年記念 相模原ステージ】 5/25(土)8:50
橋本公園→旧小倉橋→串川橋→鳥居原ふれあいの館前周回コース
<パレード4.8km> + <10.9km + 13.8km x 7周 = 107.5km>
獲得標高 = 1,728m

【SPEEDチャンネル 東京ステージ】 5/26(日)11:00
大井埠頭周回コース
<パレード3.8km> + <6.5km x 16周 = 104.0km>
獲得標高 = 50m

総走行距離 = 769.5km
総獲得標高 = 11,419m

●大会役員/Officials

Tour of Japan 2024 組織委員会 / Tour of Japan 2024 Organizing Committee			
President	会長	田中 栄作	TANAKA EISAKU
Committee Chairman	委員長	栗村 修	KURIMURA OSAMU
Committee Vice Chairman	副委員長	中梶 秀則	NAKAKAJI HIDENORI
Head of Secretariat	事務局長	大島 武巳	OHSIMA TAKEMI
Committee Members	委員	後藤 浩之	GOTO HIROYUKI
		小澤 豊	OZAWA YUTAKA
		山谷えり子	YAMATANI ERIKO
		入谷 誠	IRITANI MAKOTO
		幸田 徳之	KODA NORIYUKI
		柿添 尚弘	KAKIZOE NAOHIRO
Auditor	監事	設楽 忠	SHITARA TADASHI



TOJ NEW GENERATION

ツアー・オブ・ジャパン組織委員会 委員長
栗村 修

26回目の開催となった2024年大会は、「TOJ NEW GENERATION」という新しいコンセプトを掲げ、若い選手たちの活躍が目立つレースとなりました。未来を担う彼らの力強い走りや情熱がレース全体に新たな風を吹き込みました。国内最長の8日間8ステージで開催されるツアー・オブ・ジャパンは、アジアでもトップクラスの厳しさを誇るレースであり、その過酷さと美しさが融合した舞台に於いて、すべての関係者が全日程を熱く駆け抜けました。まずは、各会場で熱狂的な声援を送ってくださった観客の皆様へ心からの感謝を申し上げます。皆様の応援が選手たちの力となり、レースをさらに盛り上げてくれました。5年ぶりに実施した「TOJキッズ」も大成功を収め、各会場にはたくさんの子どもの笑顔が溢れました。未来のサイクリストたちが楽しそうに自転車に乗る姿を見て、大人たちも感動し、エネルギーをもらいました。

長丁場で過酷なTOJを最大のモチベーションで戦い抜いてくれたチーム・選手の皆さん、あなたたちの勇姿は私たちに感動と希望を与えてくれました。そして、レース開催にご理解・ご協力くださったコース周辺住民の方々、企業・団体の皆様に深く感謝いたします。皆様のご支援なくしてこのイベントは成立いたしません。さらに、大会を支えてくださったJKA様をはじめとしたご協賛各社様、大会の開催をご支援くださった各後援・協力団体、各公的機関の皆様のご協力がこの大会の成功に繋がりました。レースの模様を熱く報じていただいたメディアの皆様、厳しいレースを安全・公平にジャッジしてくださったコミセールやマーシャルの皆様、そして膨大な準備作業を引き受けてくださった各ステージの実行委員会の皆様、一人ひとりの努力と献身に深く感謝いたします。

そして、大会運営に関わった全てのスタッフに対し、心より感謝の気持ちをお伝えいたします。皆様、本当にありがとうございました。ツアー・オブ・ジャパンは、人の心を大きく揺さぶる、厳しくも美しい壮大な旅です。この旅が最終目的地の東京にたどり着くまでには、数え切れないほどの多くの皆様の支えがあります。私たちTOJは、今後も自転車ロードレースが持つ様々な可能性と、各地域が求めている多様なニーズを繋ぎ合わせ、日本を元気にする「魂の旅」を継続して参ります。このレースを通じて、日本各地の素晴らしい景色や文化、人々の暮らしを知っていただくことで、多くの皆様にとっても、心豊かな旅となることを願っています。また来年の大会でお会いしましょう!

JCL TEAM UKYO JCL

JCL TEAM UKYO JPN (日本)
監督: マヌエル・ボアロ BOARO Manuele



- | | | | | |
|---|-------------|------------------|---------|----|
| 1 | ネイサン・アール | EARLE Nathan | オーストラリア | 35 |
| 2 | 小石 祐馬 | KOISHI Yuma | 日本 | 30 |
| 3 | マッテオ・マルチェッリ | MALUCELLI Matteo | イタリア | 30 |
| 4 | 石橋 学 | ISHIBASHI Manabu | 日本 | 31 |
| 5 | ジョバンニ・カルボニ | CARBONI Giovanni | イタリア | 28 |
| 6 | 山本 大喜 | YAMAMOTO Masaki | 日本 | 28 |

ROOJAI INSURANCE ROI

ルージャイ インシュアランス THA (タイ)
監督: ピーター・プルーリー POULY Peter



- | | | | | |
|----|---------------------|----------------------------|---------|----|
| 21 | カーター・ベトリス | BETTLES Carter | オーストラリア | 25 |
| 22 | アリヤ・フォンサヴァス | PHOUNSAVATH Ariya | ラオス | 33 |
| 23 | アッターソン・パンサアード | PANSAARD Arttasorn | タイ | 22 |
| 24 | コンフォブ・ティマチャイ | THIMACHAI Kongphob | タイ | 21 |
| 25 | ヴァレンティン・ファビアン・ルネ・ミデ | MIDEY Valentin Fabien Rene | フランス | 34 |
| 26 | アドネ・ファン・エンゲレン | VAN ENGELEN Adne | オランダ | 31 |

ASTANA QAZAQSTAN DEVELOPMENT TEAM AQD

アスタナ カザクスタン ティベロップメント チーム KAZ (カザフスタン)
監督: アレクサンダー・シュシェモワ SHUSHEMOIN Alexandr



- | | | | | |
|----|-----------------|--------------------|--------|----|
| 41 | ニコラス・ヴィノクローフ | VINOKUROV Nikolas | カザフスタン | 21 |
| 42 | アレクサンドル・ヴィノクローフ | VINOKUROV Alexandr | カザフスタン | 21 |
| 43 | マックス・ウォーカー | WALKER Max | イギリス | 22 |
| 44 | シモーネ・ザニーニ | ZANINI Simone | イタリア | 20 |
| 45 | ダヴィデ・トネアッティ | TONEATTI Davide | イタリア | 23 |
| 46 | ニル・アギレラ | AGUILERA JORBA Nil | スペイン | 19 |

VICTOIRE HIROSHIMA VCH

ヴィクトワール広島 JPN (日本)
監督: 中山 卓士 NAKAYAMA Takashi



- | | | | | |
|----|-----------------|-------------------------|---------|----|
| 61 | ベンジャミン・ダイボール | DYBALL Benjamin | オーストラリア | 35 |
| 62 | レオネル・キンテロ・アルテアガ | QUINTERO ARTEAGA Leonel | ベネズエラ | 27 |
| 63 | 柴田 雅之 | SHIBATA Masayuki | 日本 | 29 |
| 64 | 久保田 悠介 | KUBOTA Yusuke | 日本 | 27 |
| 65 | ホセ・カスティージョ | CASTILLO Jose | ベネズエラ | 29 |
| 66 | 中村 圭佑 | NAKAMURA Keisuke | 日本 | 25 |

TERENGGANU CYCLING TEAM TSG

トレンガヌ サイクリングチーム MAS (マレーシア)
監督: モハド・サイフル・アヌアル・アズイズ AZIZ Mohd Saiful Anuar



- | | | | | |
|----|---------------------|-------------------------------|-------|----|
| 11 | アナトリー・ブディアク | BUDIAK Anatolii | ウクライナ | 28 |
| 12 | ズラドゥリ・アミン・ズククルナイン | ZULKURNAIN Zuladri Amin | マレーシア | 25 |
| 13 | クドゥス・メルハウィ・ゲブレメディン | GHEBREMEDHIN Kudus Merhawi | エリトリア | 30 |
| 14 | モハド・ヌル・アイマン・モフド・ザリア | MOHD ZARIFF Mohamad Nur Aiman | マレーシア | 26 |
| 15 | モハンマド・ヌル・アイマン・ロスリ | ROSLI Muhammad Nur Aiman | マレーシア | 25 |
| 16 | ジェ・イ・キー | KEE Zhe Yie | マレーシア | 21 |

KINAN RACING TEAM KIN

キナンレーシングチーム JPN (日本)
監督: 石田 哲也 ISHIDA Tetsuya



- | | | | | |
|----|------------|-----------------|---------|----|
| 31 | トマ・ルバ | LEBAS Thomas | フランス | 38 |
| 32 | ドリュエ・モレ | MOREY Drew | オーストラリア | 27 |
| 33 | ライアン・カバナ | CAVANAGH Ryan | オーストラリア | 28 |
| 34 | 孫崎 大樹 | MAGOSAKI Daiki | 日本 | 27 |
| 35 | 宮崎 泰史 | MIYAZAKI Taishi | 日本 | 24 |
| 36 | レイモンド・クレダー | KREDER Raymond | オランダ | 34 |

SAINT PIRAN SPC

セント パイラン GBR (イギリス)
監督: ジョン・トロット TROTT John



- | | | | | |
|----|--------------|-----------------|---------|----|
| 51 | リース・ブリットン | BRITTON Rhys | イギリス | 25 |
| 52 | ウィリアム・ロバーツ | ROBERTS William | イギリス | 25 |
| 53 | フィン・メイソン | MASON Finn | イギリス | 19 |
| 54 | ジョシュア・ラドマン | LUDMAN Joshua | オーストラリア | 19 |
| 55 | ティラン・ウェストリー | WESTLEY Dylan | イギリス | 23 |
| 56 | ヒュー・バックジョーンズ | BUCK JONES Huw | イギリス | 20 |

TEAM BRIDGELANE BLN

チームブリッジレーン AUS (オーストラリア)
監督: ジェイソン・リグ RIGG Jason



- | | | | | |
|----|--------------|-------------------|---------|----|
| 71 | ジェームズ・パニッツァ | PANIZZA James | オーストラリア | 20 |
| 72 | マシュー・グリーンウッド | GREENWOOD Matthew | オーストラリア | 21 |
| 73 | サミュエル・ジェンナ | JENNER Samuel | オーストラリア | 27 |
| 74 | ルーク・バーンス | BURNS Luke | オーストラリア | 25 |
| 75 | ベンジャミン・メトカーフ | METCALFE Benjamin | オーストラリア | 23 |
| 76 | ザッカーイ・マリッジ | MARRIAGE Zachary | オーストラリア | 20 |

MATRIX POWERTAG MTR

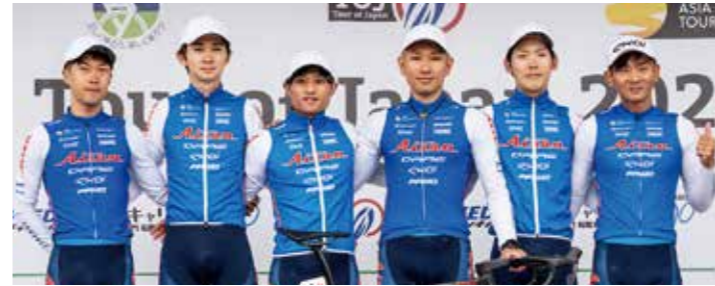
マトリックスパワータグ JPN (日本)
監督: 安原 昌弘 YASUHARA Masahiro



- | | | | | |
|----|--------------------|-----------------------------------|---------|----|
| 81 | フランシスコ・マンセボ・ベレス | MANCEBO PEREZ Francisco | スペイン | 48 |
| 82 | ホセ・ビセンテ・トリビオ・アルコリア | TORIBIO AL TRIBIO EA Jose Vicente | スペイン | 38 |
| 83 | アレクサンドロス・アグロティス | AGROTIS Alexandros | キプロス共和国 | 25 |
| 84 | 岡崎 一輝 | OKAZAKI Kazuki | 日本 | 18 |
| 85 | 小林 海 | KOBAYASHI Marino | 日本 | 29 |
| 86 | 織田 聖 | ODA Hijiri | 日本 | 25 |

AISAN RACING TEAM AIS

愛三工業レーシングチーム JPN (日本)
監督: 西谷 泰治 NISHITANI Taiji



- | | | | | |
|-----|-------|-------------------|----|----|
| 101 | 岡本 隼 | OKAMOTO Hayato | 日本 | 28 |
| 102 | 西尾 憲人 | NISHIO Keito | 日本 | 28 |
| 103 | 草場 啓吾 | KUSABA Keigo | 日本 | 27 |
| 104 | 菅原 聖人 | TOBARU Hayato | 日本 | 26 |
| 105 | 石上 優大 | ISHIGAMI Masahiro | 日本 | 26 |
| 106 | 初川 弘浩 | HATSUKAWA Kohiro | 日本 | 22 |

UTSUNOMIYA BLITZEN BLZ

宇都宮ブリッツェン JPN (日本)
監督: 西村 大輝 NISHIMURA Hiroki



- | | | | | |
|-----|-----------------------|-----------------------------|-------|----|
| 121 | フォン・チュンカイ | FENG Chun Kai | 台湾 | 35 |
| 122 | ジェシット・アルトゥロ・シエラ・サンチェス | SIERRA SANCHEZ Yecid Arturo | コロンビア | 29 |
| 123 | 谷 順成 | TANI Junsei | 日本 | 29 |
| 124 | ルーベン・ダリオ・アコスタ・オスピナ | ACOSTA OSPINA Rubén Darío | コロンビア | 27 |
| 125 | 武山 晃輔 | TAKEYAMA Kosuke | 日本 | 26 |
| 126 | 花田 聖誠 | HANADA Kiyomasa | 日本 | 25 |

NIPPO-EF-Martigues NIP

NIPPO・EF・マルティグ FRA (フランス)
監督: 大門 宏 DAIMON Hiroshi



- | | | | | |
|-----|------------|--------------------|------|----|
| 141 | 藤村 一磨 | FUJIMURA Kazuma | 日本 | 18 |
| 142 | 長島 慧明 | NAGASHIMA Satoaki | 日本 | 18 |
| 143 | 島崎 将昇 | SHIMAZAKI Masao | 日本 | 18 |
| 144 | ネリア・ムニエ ソー | MEUNIER SOW Nehiah | フランス | 19 |
| 145 | 山里 一心 | YAMASATO Isshin | 日本 | 19 |

LEVANTE FUJI SHIZUOKA LVF

レバンテフジ静岡 JPN (日本)
監督: 二戸 康寛 NITO Yasuhiro



- | | | | | |
|----|----------|-----------------|-------|----|
| 91 | 床井 亮太 | TOKOI Ryota | 日本 | 25 |
| 92 | ダニエル・グルト | GULD Daniel | デンマーク | 23 |
| 93 | 高梨 万里王 | TAKANASHI Mario | 日本 | 22 |
| 94 | 山口 瑛志 | YAMAGUCHI Eiji | 日本 | 22 |
| 95 | 夏目 天斗 | NATSUME Takato | 日本 | 20 |
| 96 | エヴァー・サウル | SAUL Evar | エストニア | 18 |

SHIMANO RACING TEAM SMN

シマノレーシング JPN (日本)
監督: 野寺 秀徳 NODERA Hidenori



- | | | | | |
|-----|--------|----------------|----|----|
| 111 | 入部 正太郎 | IRIBE Shotaro | 日本 | 34 |
| 112 | 中井 唯晶 | NAKAI Tadaaki | 日本 | 27 |
| 113 | 風間 翔真 | KAZAMA Shoma | 日本 | 27 |
| 114 | 石原 悠希 | ISHIHARA Yuki | 日本 | 27 |
| 115 | 山田 拓海 | YAMADA Takumi | 日本 | 22 |
| 116 | 寺田 吉騎 | TERADA Yoshiki | 日本 | 22 |

JAPAN NATIONAL TEAM JPN

日本ナショナルチーム JPN (日本)
監督: 宮崎 景涼 MIYAZAKI Keisuke



- | | | | | |
|-----|-------|------------------|----|----|
| 131 | 今村 駿介 | IMAMURA Shunsuke | 日本 | 26 |
| 132 | 兒島 直樹 | KOJIMA Naoki | 日本 | 23 |
| 133 | 山本 哲央 | KYAMAMOTO Tetsuo | 日本 | 24 |
| 134 | 河野 翔輝 | KAWANO Shoki | 日本 | 24 |
| 135 | 橋本 英也 | HASHIMOTO Eiya | 日本 | 30 |
| 136 | 窪木 一茂 | KUBOKI Kazushige | 日本 | 34 |

KYOTO SANGYO UNIVERSITY KYU

京都産業大学 JPN (日本)
監督: 秋田 謙 AKITA Ken



- | | | | | |
|-----|-------|-----------------|----|----|
| 151 | 矢野 悠也 | YAHAGI Yuya | 日本 | 21 |
| 152 | 稲吉 一生 | INAYOSHI Issei | 日本 | 20 |
| 153 | 森田 叶夢 | MORITA Toa | 日本 | 19 |
| 154 | 渡辺 一気 | WATANABE Ikki | 日本 | 18 |
| 155 | 山田 潤 | YAMADA Jun | 日本 | 21 |
| 156 | 末吉 陽生 | SUEYOSHI Haruki | 日本 | 21 |



5.19 SUN
1st Stage SAKAI Start ▶ 13:35

2.6km 堺ステージ

- 場所：大阪府堺市大仙公園 ●天候：雨20℃
- 来場者数：45,000人 ●ステージアンバサダー：今西尚志
- ホームステージチーム：シマノレーシング



堺ステージ優勝 マックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)

マックス・ウォーカー(アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)がトップタイム、シマノレーシングの寺田吉騎がステージ2位で日本人最高位

開幕ステージとなる堺ステージが大仙公園周回コースで開催され、序盤に出走したアスタナ カザクスタン ディベロップメント チームのマックス・ウォーカーが3分8秒のトップタイムで優勝を飾り、総合リーダーの証グリーンジャージに袖を通した。朝から降っていた雨は午後のレース時間になっても止むことはなかった。2.6kmの大仙公園周回コースを1周する個人タイムトライアルに全16チーム、95名の選手が出走した。全体の11番目に出走したマックス・ウォーカーが3分8秒で暫定首位に立つ

と、このタイムに肉薄する選手は現れなかった。63番手スタートのマッテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO) が3分16秒で暫定2位になると、このタイムを68番手出走の寺田吉騎 (シマノレーシング) が約3/100上回り、更新した他は、大きな変動は起こらなかった。「最後のライダーがフィニッシュするまでナーバスだった」とフィニッシュ後に語ったウォーカー。長くホットシートで待ち続けた末のステージ優勝には、総合リーダージャージもついてきた。ステージ2位に食い込んだ地元の寺田は、新人賞のホワイトジャージを獲得した。

個人総合時間賞マックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム) のコメント

悪天候で知られるイギリス出身なので、雨のレースに苦手意識はありません。とにかく落車しないように気をつけて走りました。自信を持ってこのステージに臨みましたが、最後のライダーがフィニッシュするまではナーバスになりましたね。リーダージャージを着用することがキャリアでも初めてのなので、できる限りチームとともに守る走りをしたいです。



▲TOJキッズ深井小学校 久保志貴さんと新人賞の寺田吉騎 (シマノレーシング)



▲TOJキッズ深井小学校 松本彩羽さんとポイント賞のマックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)



▲チームカーのSUBARUレヴォーグ



▲ツアー・オブ・ジャパン堺ステージ実行委員会委員長 岸 雅夫氏と個人総合時間賞のマックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)



▲ホームステージチーム シマノレーシング



▲安全啓蒙活動の堺警察署の皆様



▲個人タイムトライアルスターター 一般社団法人自転車協会 理事長 伊藤政博氏



▲個人タイムトライアルスタート



▲堺ステージアンバサダー 今西尚志氏



▲堺国際クリテリウムスターター 堺市長 永藤英機氏



▲堺市長賞プレゼンター 堺市産業振興局長 上西浩氏



▲大阪府知事賞プレゼンター 大阪府 府民文化部 文化・スポーツ室 スポーツ振興課長 杉本当弘氏

第1ステージ順位

1位	マックス・ウォーカー(アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	3分8秒
2位	寺田吉騎(シマノレーシング)	+8秒
3位	マッテオ・マルチェッリ(JCL TEAM UKYO)	+8秒



個人総合時間賞(グリーンジャージ)

1位	マックス・ウォーカー(アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	3分8秒
2位	寺田吉騎(シマノレーシング)	+8秒
3位	マッテオ・マルチェッリ(JCL TEAM UKYO)	+8秒



個人総合ポイント賞(ブルージャージ)

1位	マックス・ウォーカー(アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	10pt
2位	寺田吉騎(シマノレーシング)	9pt
3位	マッテオ・マルチェッリ(JCL TEAM UKYO)	8pt



個人総合新人賞(ホワイトジャージ)

1位	寺田吉騎(シマノレーシング)
2位	ニコラス・ヴィノクロフ(アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)
3位	山口瑛志(レバンテフジ静岡)

新人賞(ホワイトジャージ) 寺田吉騎(シマノレーシング) のコメント

正直なところ結果が出せるとは思っていませんでした。午前のクリテリウムで、タイムトライアルと同じ速度域でコースを走ることができたのが良かったです。このあとはジャージを守ると、狙えるステージで優勝を狙っていきます。京都ステージ、そして過去に走っていい印象を持っている相模原ステージで動きたいです。



103.6km 京都ステージ

- 場所：京都府京田辺市～精華町 ●天候：晴れ25℃
- 来場者数：46,000人 ●ステージアンバサダー：三船雅彦
- ホームステージチーム：マトリックス パワータグ



JPF京都ステージ優勝 マットテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO)

マッテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO) が集団スプリントを制し ブルージャージ獲得 ステージ2位のマックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム) が 総合リーダーの座を守る

普賢寺ふれあいの駅をスタートし、6.6kmのパレード区間を経て1周16.8kmの精華町けいはんなプラザ周回コースを6周する全103.6km。今大会初めて山岳ポイントが設定され、山岳賞争いも加熱した。
1周目にライアン・カバナ (キナンレーシングチーム) がアタックし飛び出すと、同周回完了時には中井唯晶 (シマノレーシング)、武山晃輔 (宇都宮ブリツェン)、コンフォブ・ティマチャイ (ルージャイ インシュアランス) の3名が追いつき先頭グループを形成。アスタナ カザクスタン ディベロップメント チームとJCL TEAM UKYOがコントロールする集団はこの4名との差を終始1分～2分に抑え込む。
2周目と4周目に設定されたスプリントポイントは、いずれもカバナが先頭通過。合計で6秒のボーナスタイムを獲得した。3周目と5周目に設定された山岳

賞は中井が二つとも先頭通過し、この日を終えての山岳賞を決定づけた。最終周回山岳ポイントで逃げていた4名がメイン集団に飲み込まれると、集団のままフィニッシュ地点のけいはんなプラザへとやってくる。残り1km地点でアタックしたウォーカーが後続に差をつけたが、フィニッシュラインまで残り50mのところJCL TEAM UKYOのマッテオ・マルチェッリが逆転し、混戦の集団スプリントを制した。
ステージ2位に入ったマックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム) はボーナスタイムを加算し総合リーダージャージをキープ。この日繰り上げでポイント賞ジャージを着ていたマルチェッリはポイント賞のトップに立った。新人賞はステージ5位の寺田吉騎 (シマノレーシング) がキープしている。

個人総合時間賞マックス・ウォーカー
(アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム) のコメント

ジャージをキープするためには今日のステージで3位以内に入る必要があったと考えていました。総合で8秒差の何名かにはスプリント力があり、今日のコースで上位に来ることが想定されたからです。今日、何周回かしているうちにコーナーリングの優位性を感じたので、残り1kmでアタックを仕掛けました。残念ながらフィニッシュラインが50m遠かったですね。それでもジャージを守ることができて嬉しく思います。

個人総合ポイント賞 マットテオ・マルチェッリ
(JCL TEAM UKYO) のコメント

マックス(ウォーカー)が飛び出したときは強力で追いつけないと思いました。それまでの周回でラスト数百メートルが向かい風が少し登っていることはわかっていたので、最後までタイミングを待ち、ホワイトジャージの選手を追い抜くようにスプリント。マックスの勢いが落ちたおかげで追いついて勝つことができました。今日は繰り上げのポイント賞ジャージでしたが、これで自分のものとして着ることができるので本当に嬉しいです。



▲普賢寺ふれあいの駅で宇治茶のサービス



▲京都ステージアンバサダー 三船雅彦氏 (右)



▲ホームステージチーム マトリックス パワータグ



▲祝辞する京都府知事 西脇隆俊氏



▲スターター 京田辺市長 上村崇氏



▲同志社大応援団チアリーダー部



▲TOJ組織委員会 委員長 栗村修氏と寺田吉騎 (シマノレーシング)



▲京田辺市長 上村崇氏と山岳賞 中井唯晶 (シマノレーシング)



▲精華町長 杉浦正省氏とポイント賞 マットテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO)



▲株式会社JPF 常務取締役 吉川智之氏と個人総合時間賞のマックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)



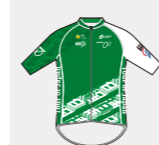
▲4賞選手、TOJキッズとプレゼンターの皆さん



▲京都府山城広域振興局 局長 浅山尚紀氏とJPF京都ステージ優勝 マットテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO)

第2ステージ順位

1位	マッテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO)	2時間41分13秒
2位	マックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	+0秒
3位	今村駿介 (日本ナショナルチーム)	+0秒



個人総合時間賞 (グリーンジャージ)

1位	マックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	2時間44分15秒
2位	マッテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO)	+4秒
3位	ライアン・カバナ (キナンレーシングチーム)	+10秒



個人総合山岳賞 (レッドジャージ)

1位	中井唯晶 (シマノレーシング)	10pt
2位	ライアン・カバナ (キナンレーシングチーム)	6pt
3位	コンフォブ・ティマチャイ (ルージャイ インシュアランス)	2pt



個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)

1位	マッテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO)	33pt
2位	マックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	30pt
3位	寺田吉騎 (シマノレーシング)	21pt



個人総合新人賞 (ホワイトジャージ)

1位	寺田吉騎 (シマノレーシング)
2位	ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)
3位	山口瑛志 (レバンテフジ静岡)

個人総合山岳賞 中井唯晶
(シマノレーシング) のコメント

去年のこのステージで山岳賞が取れなかったのでレベンジを狙っていましたが。逃げのグループではお互いの利害が一致していませんでした。寺田選手が新人賞ジャージを着ていて、チームに勢いがあります。明日のいなべステージは厳しい登坂のイナベルグがありますが、積極的に逃げてジャージを守るように頑張りたいです。

新人賞 寺田吉騎
(シマノレーシング) のコメント

残り1kmでマックス選手が5秒くらい先行していましたが、その後の集団の4番手で最終コーナーに入ってスプリントを開始しました。残り250mから全開でもがくしくしく、最後は今村選手、マルチェッリ選手、草場選手にまくられて5位でした。チームはいい形を作ってくれましたが、最後は力の差が出ました。

5.21 TUE

3rd Stage INABE Start ▶ 09:30



127.0km いなべステージ

- 場所：三重県いなべ市 ●天候：晴れ20℃
- 来場者数：18,000人 ●ステージアンバサダー：加藤康則
- ホームステージチーム：キナンレーシングチーム



いなべステージ優勝 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)

ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO) が逃げグループのスプリントを制し、ステージ優勝&総合リーダーに

三岐鉄道北勢線の終着駅である三重県いなべ市の阿下喜駅前をスタートし、3.1kmのパレード区間を経て1周14.8kmのいなべ市梅林公園周回コースを8周する走行距離127.0kmのコース。いなべステージ名物の激坂「イナベルグ」といなべ特有の強風も勝敗に影響した。2周目に設定されたKOMでは、集団から山岳賞ジャージを着る中井唯晶 (シマノレーシング) が飛び出し先頭で通過。山岳ポイントを加算する。3周目完了時のスプリントポイントは、逃げていたモフド・ザリフ (トレンガヌ サイクリング チーム) が先頭通過。アスタナ カザクスタン ディベロップメント チームのダヴィデ・トネアッティ、キナンレーシングチームのライアン・カバナが続き、それぞれポイントとボーナスタイムを獲得した。

4周目のイナベルグで7名が先頭グループを形成。4周目完了時にメイン集団に対し1分39秒後差をつけた。5周目のKOMはドリリュエ・モレ (キナンレーシング チーム) が先頭通過。6周目完了時のスプリントポイントは、ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)、ザッカーリー・マリッジ (チーム ブリッジレーン)、モレの順に通過する。最後は逃げグループでの上りスプリントに持ち込まれ、カルポーニがステージ優勝。2位にアナトリー・ブディアク (トレンガヌ サイクリング チーム)、3位にモレが入った。メイン集団は1分33秒遅れで岡本隼 (愛三工業レーシングチーム) を先頭にフィニッシュ。この結果、カルポーニが総合リーダージャージとポイントジャージを獲得。新人賞はステージ5位のマリッジへと移った。

個人総合時間賞・個人総合ポイント賞
ジョバンニ・カルポーニ
(JCL TEAM UKYO) のコメント

日本人のチームメイトからこのステージがハードであることは聞いていました。3周目でチームメイトの(小石)祐馬と一緒に逃げに入ることができましたが、彼がいなければ今日の展開にはならなかったと思います。逃げグループでは協調体制がなかなかとれなかったため、最後は自分が先行してフィニッシュへ向かいました。明日はスプリンターのステージなのでマルチェリで狙います。



▲TOJキッズスクール



▲いなべステージアンバサダー 加藤康則氏



▲いなべ市議会議員 小川 幹則氏とポイント賞
ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)



▲いなべ市 副市長 山下正史氏と山岳賞 中井唯晶 (シマノレーシング)



▲いなべ市 教育長 小川 尊哉氏と新人賞
ザッカーリー・マリッジ (チーム ブリッジレーン)



▲キナンレーシングチームと応援団



▲トヨタ株式会社 いなべ工場長 田中繁喜氏



▲ホームステージチーム キナンレーシングチーム



▲いなべ市長 日沖 靖氏



▲いなべ市長 日沖 靖氏とステージ優勝
ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)



▲いなべ市長 日沖 靖氏と個人総合時間賞
ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)



▲いなべ市長 日沖 靖氏と三重県立朝明高等学校自転車競技部、
キナンレーシングチーム みえジュニア クラブのパレード参加者

第3ステージ順位

1位 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)	3時間10分52秒
2位 アナトリー・ブディアク (トレンガヌ サイクリング チーム)	+0秒
3位 ドリリュエ・モレ (キナンレーシングチーム)	+0秒



個人総合時間賞 (グリーンジャージ)

1位 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)	5時間55分10秒
2位 アナトリー・ブディアク (トレンガヌ サイクリング チーム)	+14秒
3位 カーター・ベトルス (ルージュイ インシュアランス) +17秒	



個人総合山岳賞 (レッドジャージ)

1位 中井唯晶 (シマノレーシング)	15pt
2位 ライアン・カバナ (キナンレーシングチーム)	6pt
3位 ドリリュエ・モレ (キナンレーシングチーム)	5pt



個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)

1位 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)	42pt
2位 マッテオ・マルチェリ (JCL TEAM UKYO)	33pt
3位 マックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	30pt



個人総合新人賞 (ホワイトジャージ)

1位 ザッカーリー・マリッジ (チーム ブリッジレーン)
2位 寺田吉騎 (シマノレーシング)
3位 ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)

個人総合山岳賞
中井唯晶 (シマノレーシング) のコメント

一日中キツかったですね。風が強く、登り口もナーバスでした。最初の山岳ポイントでは、チームメイトが位置取りのアシストをしてくれたおかげで5ポイントを獲得できました。なんとか今日ジャージを守り切れてよかったです。今回赤いアイウェアでレースに臨んでいるのですが、赤の山岳賞ジャージを連れてきてくれたのかもしれない。

新人賞 ザッカーリー・マリッジ (チーム ブリッジレーン) のコメント

日本でホワイトジャージを着ることができて嬉しいです。一日中タフで、最後には足が痛ってしまいました。今季カデル・エヴァンスグレートオーシャンロードレースでの山岳賞というリザルトはありましたが、初めての日本でのレースでの新人賞の方がベストリザルトと言えるかもしれません。TOJの後にはヨーロッパ遠征も控えているので、ここでいい結果と印象的な走りできればと思います。



5.22 WED
4th Stage MINO Start ▶ 09:15

137.3km 美濃ステージ

●場所: 岐阜県美濃市 ●天候: 曇り20℃
●来場者数: 22,000人 ●ステージアンバサダー: 中根英登
●ホームステージチーム: 愛三工業レーシングチーム



美濃ステージ優勝 ジョシュア・ラドマン (セント パイラン)



▲美濃ステージアンバサダー 中根英登氏



▲スターター 岐阜県副知事 大森康宏氏



▲開会挨拶 美濃市長 武藤鉄弘氏



▲ホームステージチーム 愛三工業レーシングチーム



▲めぐみ農業協同組合 代表理事専務 加藤正和氏と美濃ステージ優勝 ジョシュア・ラドマン (セント パイラン)



▲タカイコーポレーション社長 岩田 誠氏と山岳賞 中井唯晶 (シマノレーシング)



▲岐阜県議会議員 佐藤武彦氏とポイント賞 寺田吉騎 (シマノレーシング)



▲岐阜県中濃県事務所長 吉田和代氏と個人総合時間賞 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)



▲美濃ステージ実行委員長 土本恭正氏と美濃ステージ優勝 ジョシュア・ラドマン (セント パイラン)



▲美濃市議会 副議長 須田誠也氏と新人賞 ザッカーリー・マリッジ (チーム ブリッジレーン)



▲美濃農工会議所 副会長 西村康利氏とポイント賞 寺田吉騎 (シマノレーシング)



▲美濃市長 武藤鉄弘と美濃ステージ優勝 ジョシュア・ラドマン (セント パイラン)

逃げ切り決まる! マッチレースを制したラドマンがステージ優勝 総合リーダーのカルポーニはジャージをキープ

TOJ大会中でも屈指の歴史的景観を誇る「うだつの上がる街並み」をスタートする伝統的美濃ステージ。旧今井家住宅前から4.0kmのパレード区間を経て、21kmの美濃和紙の里会館前周回コースを6周回する総走行距離137.3kmで争われた。

逃げが決まらないまま迎えた1周目完了時の中間スプリントポイントは、寺田吉騎 (シマノレーシング) が先頭通過。ポイントとボーナスタイムを稼ぐ。

2周目に設定された山岳ポイントは集団から飛び出した中井唯晶 (シマノレーシング)、モハマド・ヌル・アイマン・モフド・ザリフ (トレンガヌ サイクリング チーム)、ジョシュア・ラドマン (セント パイラン)、山本哲央 (日本ナショナルチーム) の4名の争いになり、山岳賞ジャージを着る中井が先頭通過し、ポイン

トを加算。この4名がそのまま逃げグループを形成する。3周目完了時のスプリントポイントは中井が先頭通過を果たす。4周目に設定された2回目の山岳ポイントも中井が先頭で通過し、山岳賞トップの座をさらに確固たるものにする。5周目完了時のスプリントポイントは、ラドマンが先頭で通過し最終周回へ。

4名の逃げは、最終周回で山本とラドマンの2名に絞り込まれたが、メイン集団は彼らを捕まえることができなかった。ラドマンがマッチスプリントを制してステージ優勝。集団内でフィニッシュしたジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO) がグリーンジャージを守った。ステージ5位の寺田は新たにブルージャージを獲得した。

ステージ優勝 ジョシュア・ラドマン (セント パイラン) のコメント

今日はシートポストにトラブルがあって2度追走することになったけれど、総合上位の選手が逃げグループにいないので逃げ切りのチャンスがあると思っていました。フィニッシュまであと20分のところでギャップを確認して、最後の数分で逃げ切りを確認しました。日本は伝統的に強いスプリンターがいるので最後は不安になりましたが、上りでは僕の方が足があったので、最後のスプリントも長距離で仕掛けた。逃げに乗るのが好きなので、この方向性で将来は逃げのスペシャリスト、クラシックライダーになりたいと思っています。

個人総合時間賞 (グリーンジャージ) ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO) のコメント

とても速く、チームとしてはコントロールする必要のあったステージでした。我々は総合成績を狙うため、明日もまた集団をコントロールして、安全にクリアしたいと思う。

個人総合ポイント賞 (ブルージャージ) 寺田吉騎 (シマノレーシング) のコメント

ポイント賞で1位の選手 (カルポーニ) と13ポイント、2位のマルチェリ選手とは5ポイント差だったので、中間スプリントを獲り、かつフィニッシュでマルチェリ選手に先着できればポイント賞リーダーになれることを想定したうえで、今日は計画通りにすべて進みました。最初に出かけた逃げも入部さんが差を埋めてくれたおかげで、自分が先頭で中間スプリントを獲れたんです。良い一日になりました。

第4ステージ順位	
1位 ジョシュア・ラドマン (セント パイラン)	3時間6分21秒
2位 山本哲央 (日本ナショナルチーム)	+0秒
3位 窪木一茂 (日本ナショナルチーム)	+29秒

個人総合時間賞 (グリーンジャージ)	
1位 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)	9時間01分59秒
2位 アナトリー・ブディアク (トレンガヌ サイクリング チーム)	+15秒
3位 カーター・ベトルス (ルージャイ インシュアランス) +18秒	

個人総合山岳賞 (レッドジャージ)	
1位 中井唯晶 (シマノレーシング)	25pt
2位 ライアン・カバナ (キナンレーシングチーム)	6pt
3位 モハマド・ヌル・アイマン・モフド・ザリフ (トレンガヌ サイクリング チーム)	6pt

個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)	
1位 寺田吉騎 (シマノレーシング)	45pt
2位 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)	44pt
3位 マッテオ・マルチェリ (JCL TEAM UKYO)	43pt

個人総合新人賞 (ホワイトジャージ)	
1位 ザッカーリー・マリッジ (チーム ブリッジレーン)	
2位 寺田吉騎 (シマノレーシング)	
3位 ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	

個人総合山岳賞 (レッドジャージ) 中井唯晶 (シマノレーシング) のコメント

1回目のスプリントポイントを寺田選手が獲ってくれて、そのあとうまく自分が逃げに乗ることができました。今日は一緒に逃げたメンバーが最後まで逃げ切りましたが、悔しいので僕が集団に戻ったから逃げ切れたのだと思うことにします (笑)。明日の信州飯田ステージは山岳が厳しいですが、一回でも先頭通過できれば最終的な山岳賞が見えてくると思います。

新人賞 (ホワイトジャージ) ザッカーリー・マリッジ (チーム ブリッジレーン) のコメント

昨日よりはリラックスして走れました。とはいえスプリントに向けてレースの序盤から激しく落ち着かない展開になり、タフでハードでした。今日でレースは折り返しですが、富士山や他のタフなステージが残っているので、厳しさで言えば全く半分にも達していないと思います。



120.9km 信州飯田ステージ

- 場所：長野県飯田市 ●天候：曇り23℃
- 来場者数：19,000人 ●ステージアンバサダー：福島晋一
- ホームステージチーム：JCL TEAM UKYO



綿半 信州飯田ステージ優勝 ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)

アスタナがワンツーフィニッシュ! ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム) が 執念の逃げ切りでステージ優勝

下久堅小学校グラウンド前がスタート&フィニッシュ地点となる1周12.2kmの下久堅周回コースを10周する走行距離120.9km。これまでのステージよりも山岳色が強まり、本格的な総合優勝争いの始まりとなるステージだ。1周目の終わりにニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム) や山岳賞ジャージを着る中井唯晶 (シマノレーシング) を含む14名の逃げ集団が形成。周回完了時の中間スプリントポイントは、コンフォブ・ティマチャイ (ルージャイ インシュアランス) が先頭通過を果たす。2周目に設定された山岳ポイントは中井が先頭で通過し、7ptを加算する。2周目でマックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム) が単独で先頭集団に合流。3周目完了時の中間スプリントポイントは入部正太郎 (シマノレーシング) が先頭で通過。総合7位につけるライアン・カバナ (キナンレーシングチーム) が2位通過でボーナスタイム2秒を獲得した。

5周目に設定された山岳ポイントはウォーカーが先頭通過。ここで先頭グループは8名まで人数を減らす。5周目完了時の中間スプリントは、カバナが先頭通過で新たにボーナスタイム3秒を稼いだ。7周目の山岳ポイントではアスタナが攻撃に転じ、ヴィノクロフが先頭通過。最終周回のKOMでメイン集団が逃げていた選手たちを飲み込んだが、これを嫌ったヴィノクロフが単独で飛び出し、15名ほどのグループに先行して山頂を通過する。このヴィノクロフに残り3kmでベンジャミン・ダイボール (ヴィクトワール広島) が単独で合流。メイン集団が迫る中、フィニッシュの登りでアタックしたヴィノクロフがステージを制した。2位には集団から飛び出したダヴィデ・トネアッティ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム) が滑り込み、ダイボールは3位となった。

ステージ優勝ニコラス・ヴィノクロフ
 (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム) のコメント

今日一番いい戦略は逃げることだと考えていました。マックス・ウォーカーと二人で逃げに乗り、逃げの人数が多すぎてペースが上がらなかったので残り50kmで絞り込みました。残り10kmで集団が追いついてきたので、最後の山岳ポイントでは全開でアタックして単独になりました。その後一人が追いついてきましたが、残り500mで再度アタックして勝ち切ることができました。美しい日本で勝利できてとても嬉しく思います。

個人総合時間賞(グリーンジャージ)・個人総合ポイント賞(ブルージャージ)
 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO) のコメント

まずはチームのみんなに感謝を伝えたいです。レースをコントロールして、リーダージャージを守ることが出来ました。明日はビッグデイになると思いますが、我々は準備できています。



▲千代不動太鼓の演奏



▲信州飯田ステージアンバサダー 福島晋一氏



▲スターター 飯田商工会議所 会頭 TOJ信州飯田ステージ組織委員会 会長 原 勉氏



▲ホームステージチーム JCL TEAM UKYO



▲下久堅まちづくり委員会 委員長 滝沢和彦氏とポイント賞 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)



▲飯田市長 佐藤 健氏とステージ優勝 ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)



▲飯田市長 佐藤 健氏と新人賞 ザッカリー・マリッジ (チーム ブリッジレーン)



▲青藍洞窟作者 川手敏雄氏とステージ優勝ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)



▲TOJ信州飯田ステージ実行委員会 委員長 熊谷秀男氏と山岳賞 中井 唯晶 (シマノレーシング)



▲長野県飯田市伝統工芸「氷引」王冠



▲飯田地酒「喜久水酒造」シードル



▲綿半ホールディングス株式会社 取締役 笹 広男氏と個人総合時間賞 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)

第5ステージ順位

1位	ニコラス・ヴィノクロフ(アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	3時間2分43秒
2位	ダヴィデトネアッティ(アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	+3秒
3位	ベンジャミン・ダイボール(ヴィクトワール広島)	+3秒

個人総合時間賞(グリーンジャージ)

1位	ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)	12時間04分51秒
2位	アナトリー・ブディアク (トレンガヌ サイクリング チーム)	+15秒
3位	カーター・ペトルス(ルージャイ インシュアランス)	+18秒

個人総合ポイント賞(ブルージャージ)

1位	ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)	52pt
2位	寺田吉騎(シマノレーシング)	45pt
2位	マッテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO)	43pt

個人総合山岳賞(レッドジャージ)

1位	中井唯晶(シマノレーシング)	32pt
2位	ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	12pt
3位	マックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	10pt

個人総合新人賞(ホワイトジャージ)

1位	ザッカリー・マリッジ(チーム ブリッジレーン)
2位	ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)
3位	ネリアム・エネ ソー (NIPPO・EF・マルティネ)

個人総合山岳賞(レッドジャージ)
 中井唯晶 (シマノレーシング) のコメント

序盤から登りがキツかったですが、2周目にキナンのライアン(カバナ)選手の動きに合わせて逃げに乗り、最初の山岳ポイントを先頭通過することができました。この厳しいステージでポイントを加点できたのは、この山岳賞ジャージを東京で着るという意味でも大きいと思います。

新人賞(ホワイトジャージ)
 ザッカリー・マリッジ (チーム ブリッジレーン) のコメント

タフな一日でしたがジャージをキープできて良かったです。集団はJCL TEAM UKYOが終日コントロールしていて、私達がコントロールに入ってもよかったのかもしれませんが、手がまわりませんでした。明日は総合系の選手を助けつつ、このジャージがキープできると良いのですが。



5.24 FRI

6th Stage FUJISAN Start ▶ 10:05

66.6km 富士山ステージ

- 場所: 静岡県駿東郡小山町 ●天候: 曇り16℃ (ふじあざみライン山頂)
- 来場者数: 14,000人 ●ステージアンバサダー: 飯島 誠
- ホームステージチーム: レバンテフジ静岡



富士山ステージ優勝 ジョバンニ・カルボニー (JCL TEAM UKYO)



▲1,475mの富士スピードウェイメインストレートをセレモニーラン



▲富士山ステージアンバサダー 飯島誠氏



▲セレモニーランスターター えすたいすばーく



▲パレードランスターター 富士山ステージ実行委員会会長 小山町長 込山正秀氏



▲ホームステージチーム レバンテフジ静岡



▲小山町議会 議長 遠藤豪氏と 個人総合時間賞 ジョバンニ・カルボニー (JCL TEAM UKYO)



▲同日開幕のスーパー耐久シリーズ富士コースをセレモニーラン



▲富士山ステージ実行委員会 副会長 小山町観光協会 会長 鈴木萬利子氏と ポイント賞 寺田吉騎 (シマノレーシング)



▲富士山ステージ実行委員会 副会長 小山町商工会 会長 秋田敬氏と 山岳賞 中井唯晶 (シマノレーシング)



▲富士山ステージ実行委員会 小山町副町長 室伏博行氏と ステージ優勝 ジョバンニ・カルボニー (JCL TEAM UKYO)



▲富士山ステージ実行委員会委員 小山町区長会 会長 堀内則寿氏と 新人賞 ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)



▲富士山ステージ優勝 ジョバンニ・カルボニー (JCL TEAM UKYO)

総合リーダーによる富士山制覇! ジョバンニ・カルボニーが総合優勝を 大きく引き寄せるステージ優勝

ツアー・オブ・ジャパン6日目は、大会の最大の山場となる富士山ステージ。今年、東京2020の個人タイムトライアルコースを使用した11.5kmの周回を4周回した後にふじあざみラインを登る66.6kmのルートが設定された。スタート地点は富士スピードウェイ。選手たちはサーキットのパレード走行を経て本コースへ挑んだ。

1周目にダヴィデ・トネアッティとマックス・ウォーカー (共にアスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)、寺田吉騎 (シマノレーシング)、ライアン・カバナ (キナンレーシングチーム)、山口瑛志 (レバンテフジ静岡) の5名が逃げグループを形成。2周目完了時の中間スプリントポイントを寺田が先頭で通過し、ポイントを加算する。

4周完了時点のスプリントポイントはカバナが先着。2位通過となった寺田はこ

の日を終えてのポイント賞リーダーを確定させる。

ふじあざみラインへ向かう区間でウォーカーが単独で抜け出すと、残り16km地点でトネアッティが追いつき、アスタナの2名が先頭となる。あざみラインに入った残り11km地点でトネアッティがアタックし単独先頭に。

メイン集団からはベンジャミン・ダイボール (ヴィクトワール広島) がアタック。総合リーダーのジョバンニ・カルボニーとメルハウィ・クドゥス (トレンガヌ サイクリング チーム) を加えた3名は、残り6kmでトネアッティを追い抜いた。

3名は互いに攻撃を仕掛けながら残り距離を減らしていくが、残り1.1kmでカルボニーのアタックが成功。総合リーダーが単独先頭でふじあざみライン山頂のフィニッシュラインを切った。2位には21秒差でクドゥス、3位には23秒差でダイボールが入った。

ステージ優勝・個人総合時間賞 (グリーンジャージ) ジョバンニ・カルボニー (JCL TEAM UKYO) のコメント

チームメイトとスタッフに今日の勝利を捧げたいと思います。富士山を登るのは初めてでしたが、チームメイトから残り5kmで勾配が急になることを聞いていました。3名になってからも自分がレースをコントロールできていたので、勝つ自信がありました。富士山はジャウ峠やモルテローロ峠よりも厳しい登りでした。特にコーナーを抜けた後も勾配がきついのはヨーロッパとは違いますね。

個人総合ポイント賞 (ブルージャージ) 寺田吉騎 (シマノレーシング) のコメント

明日以降のステージでポイント賞争いを有利に進めるためにも、今日は動く必要がありました。総合上位勢が僅差なこともあり、明日はポイント争いとボーナスタイム争いが同時に起こる、ぐちゃぐちゃしたレースになると予想しています。相模原と東京ではフィニッシュで上位に入らないと、最終的なジャージ獲得はできないでしょうね。厳しい戦いになると思いますが、最後まで振り絞って頑張りたいと思います。

第6ステージ順位	
1位 ジョバンニ・カルボニー (JCL TEAM UKYO)	2時間11分53秒
2位 メルハウィ・クドゥス (トレンガヌ サイクリング チーム)	+21秒
3位 ベンジャミン・ダイボール (ヴィクトワール広島)	+23秒

個人総合時間賞 (グリーンジャージ)	
1位 ジョバンニ・カルボニー (JCL TEAM UKYO)	14時間16分44秒
2位 ベンジャミン・ダイボール (ヴィクトワール広島)	+2分07秒
3位 メルハウィ・クドゥス (トレンガヌ サイクリング チーム)	+2分10秒

個人総合山岳賞 (レッドジャージ)	
1位 中井唯晶 (シマノレーシング)	32pt
2位 ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	18pt
3位 ジョバンニ・カルボニー (JCL TEAM UKYO)	15pt

個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)	
1位 寺田吉騎 (シマノレーシング)	53pt
2位 ジョバンニ・カルボニー (JCL TEAM UKYO)	52pt
3位 マッテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO)	43pt

個人総合新人賞 (ホワイトジャージ)	
1位 ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	
2位 ザッカーリー・マリッジ (チーム プリッジレーン)	
3位 マシュー・グリーンウッド (チーム プリッジレーン)	

個人総合山岳賞 (レッドジャージ) 中井唯晶 (シマノレーシング) のコメント

今日は寺田選手のスプリントポイント獲得のために走りました。JCL TEAM UKYOの選手たちと協調して集団をコントロールできました。山岳賞は2位の選手とポイント差があるので手堅いと思いますが、明日も寺田選手のサポートをするため集中して走ります。

新人賞 (ホワイトジャージ) ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム) のコメント

富士山はものすごい登坂でした。このホワイトジャージを持って帰れるように明日と明後日もベストを尽くして走ります。やれるだけやってみましょう。



70th Anniversary of Sagami-hara

7th Stage SAGAMIHARA

5.25 SAT

Start ▶ 08:50

107.5km 相模原ステージ

- 場所：神奈川県相模原市 ●天候：曇り20℃
- 来場者数：23,000人 ●ステージアンバサダー：初山 翔
- ホームステージチーム：JCL TEAM UKYO



相模原ステージ優勝 マックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)

マックス・ウォーカーがステージ2勝目! アスタナ カザクスタン ディベロップメント チームが TOP10に4名を送り込む快勝

ツアー・オブ・ジャパン7日目は、今年で市制施行70周年を迎える相模原市を舞台とするステージ。橋本公園をスタートし、4.8kmのパレード区間を経て旧小倉橋を通過した後にアクチュアルスタート。鳥居原ふれあいの館前周回コースを7周する走行距離107.5kmのコースが設定された。総合成績とポイント賞を巡る様々な思惑のもと、激しいレースが展開された。

1周目から逃げたい選手が多数飛び出すが決定的な動きが生まれない。最初のスプリントポイントは総合8位につけている小林海 (マトリックス パワータグ) が先頭通過しボーナスタイムを獲得。ポイント賞リーダーの寺田吉騎 (シマノレーシング) は2位通過し、ポイントを加算する。

1周目完了時の山岳は、山岳賞リーダーの中井唯晶のチームメイト入部正太郎 (シマノレーシング) が先頭通過。逃げが決まらないまま、2回目のスプリントポイントは寺田が先頭通過を果たした。

2回目の山岳ポイントは、再び入部が先頭通過。このとき風間翔真 (シマノレー

シング)、織田聖 (マトリックス パワータグ)、アドネ・ファン・エンブレ (ルージャイ インシュアランス)、孫崎大樹 (キナンレーシングチーム)、草場啓吾 (愛三工業レーシングチーム) と共に6名の逃げグループが形成された。最後のスプリントポイントは孫崎、山岳ポイントはファン・エンブレがそれぞれ先頭で通過を果たす。最大で1分のタイム差をつけた逃げ6名だったが、最終周回を前にして吸収。替わってマックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム) と兒島直樹 (日本ナショナルチーム)、そして逃げから残ったファン・エンブレの3名が先頭に立つ。

最後は3名によるスプリント勝負となり、ウォーカーが優勝。堺ステージに続く大会2勝目を飾った。2位にファン・エンブレ、3位に兒島が入った。5秒差まで迫ったメイン集団でフィニッシュしたジョバンニ・カルポーニが総合リーダーシップを危なげなく守った。アスタナ カザクスタン ディベロップメント チームはTOP10に4名を送り込む完勝であった。

ステージ優勝 マックス・ウォーカー
(アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム) のコメント

レースの最初に堺で勝ってからも毎日トライを続けてきましたが、今日こうして再び勝って嬉しいです。TOJは距離が短く、高強度な展開になるため、ヨーロッパのレースと異なり、逃げがどこで決まるのかの予想が難しいのです。チームは普段ヨーロッパでレースをしているので、日本のレースとの違いにようやく慣れてきましたね。将来の夢はツール・ド・フランスを走ること。でも今年走ったクールネ・ブリュッセル・クールネというクラシックレースも楽しかったので、石畳のレースも走れるようにしたいですね。

個人総合時間賞 (グリーンジャージ)
ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO) のコメント

とても速い一日でした。とはいえチームが完璧にコントロールしてくれました。東京でこのグリーンジャージを着られるよう、気を抜かず明日のステージを走りたいです。



▲TOJキッズ、実行委員会メンバーと入賞選手たち



▲相模原ステージアンバサダー 初山翔氏



▲スターター 相模原市副市長 石井賢之氏



▲スタートセレモニーランの参加者



▲ホームステージチーム JCL TEAM UKYO



▲挨拶 相模原市長 本村賢太郎氏



▲清川村長 岩澤吉美氏と新人賞 ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)



▲愛川町長 小野澤豊氏と山岳賞 中井唯晶 (シマノレーシング)



▲相模原市市政70周年ロゴ



▲相模原市副市長 石井賢之氏とステージ優勝 マックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)



▲相模原市緑区長 椎橋 薫氏とポイント賞 寺田吉騎 (シマノレーシング)



▲相模原市長 本村賢太郎氏と個人総合時間賞 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)

第7ステージ順位

- 1位 マックス・ウォーカー (アスタナカザクスタンディベロップメントチーム) 2時間24分45秒
- 2位 アドネ・ファン・エンブレ (ルージャイ インシュアランス) +0秒
- 3位 兒島直樹 (日本ナショナルチーム) +2秒



個人総合時間賞 (グリーンジャージ)

- 1位 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO) 14時間16分44秒
- 2位 メルハウィ・ドゥッス (トレンガヌ サイクリング チーム) +2分07秒
- 3位 ベンジャミン・ダイボール (ヴィクトワール広島) +2分12秒



個人総合山岳賞 (レッドジャージ)

- 1位 中井唯晶 (シマノレーシング) 32pt
- 2位 ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム) 18pt
- 3位 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO) 15pt



個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)

- 1位 寺田吉騎 (シマノレーシング) 65pt
- 2位 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO) 62pt
- 3位 マックス・ウォーカー (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム) 56pt



個人総合新人賞 (ホワイトジャージ)

- 1位 ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)
- 2位 ザッカリ・マリッジ (チーム プリッジレーン)
- 3位 マシュー・グリーンウッド (チーム プリッジレーン)

個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)
寺田吉騎 (シマノレーシング) のコメント

中間ポイントを取りに行くのと、配点が高いフィニッシュのポイントも狙って走りました。序盤からアタック合戦が激しかったですが、自分自身も調子の良さを感じていました。最初2回の中間スプリントポイントは集団のままで入ったのでポイントを狙いました。そのあとは入部選手と風間選手が逃げに乗ってくれたのでフィニッシュにむけての位置取りに専念でき、なんと4ポイントを加算できたのはよかったです。明日の東京は笑顔でフィニッシュできるよう頑張ります。ひとつでもいい順位を狙って最後のコーナーに入ることにします。

個人総合山岳賞 (レッドジャージ)
中井唯晶 (シマノレーシング) のコメント

今日はスタートしてから、疲労もあって体が重かったんですが、チームメイトの入部選手が最初の山岳ポイントを先頭で通過してくれたおかげでこのジャージを確定できました。レース終盤に寺田選手のために動きたかったのですが、連携がうまくいきませんでした。明日は彼のポイント賞ジャージのために気合を入れ直して走ります。明日、日本人二人で特別賞ジャージを獲得できたらいいですね。



104.0km **東京ステージ**

- 場所: 東京都品川区~大田区 ●天候: 曇り20℃
- 来場者数: 32,000人 ●ステージアンバサダー: 浅田 顕
- ホームステージチーム: ロード・トゥ・ラヴニール



東京ステージ優勝 マッテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO)

マッテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO) がステージ2勝目!
ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO) が総合優勝に輝く

ツアー・オブ・ジャパン最終日となる8日目は、東京・大井埠頭を舞台とするSPEEDチャンネル東京ステージ。1周6.5km周回コースを16周回する104km。個人総合優勝争いは、ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO) が2位に2分以上の大差をつけており、この日の焦点は僅差のポイント争いとステージ優勝となった。

1周目から逃げを狙う選手のアタックが連続するが、決定的な動きが生まれない。ポイント賞リーダーの寺田吉騎 (シマノレーシング) が4周目と8周目に設定された中間スプリントポイントを先頭で通過し、ポイント加算に成功する。10周目に7名の逃げグループが形成され、集団に対して30秒近い差を稼ぎ出す。残り3周でこのグループから河野翔輝 (日本ナショナルチーム) とサミュエル

ル・ジェンナ (チームブリッジレーン) の2名が飛び出し先頭に立つ。ジェンナが河野を振り落とし単独先頭で残り2周回を迎えるが、メイン集団がほどなくして吸収する。カウンターで森田叶夢 (京都産業大学) が飛び出す場面も見られたが、最終的に集団一つでフィニッシュラインへ。僅差のスプリントを制したのはマッテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO) で、京都ステージに続く、今大会2勝目を飾った。集団内でレースを終えたジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO) が総合優勝に輝いた。ポイント賞争いはレース序盤に動いた寺田が、山岳賞は中井唯晶が獲得し、シマノレーシングは2枚の特別賞ジャージを手に入れた。

ステージ優勝
マッテオ・マルチェッリ
(JCL TEAM UKYO) のコメント

今日は美しい一日でしたね。私たちは一週間、総合リーダーのカルポーニのために走ってきました。私は昨日のステージは力を温存することに専念しました。今日の東京のステージを狙っていたからです。個人的には第2ステージで優勝し、そして今日の東京でも優勝。最終的にチームは今大会4勝と総合優勝を獲得できました。とても嬉しく思います。



▲4賞総合勝者



▲RTA賞 ロード・トゥ・ラヴニール プロジェクトマネージャー 浅田 顕氏と 寺田吉騎 (シマノレーシング)



▲東京ステージアンバサダー 浅田顕氏



▲株式会社車両スポーツ映像 代表取締役社長 渡邊 実氏と 個人総合ポイント賞 寺田吉騎 (シマノレーシング)



▲株式会社車両スポーツ映像 代表取締役社長 渡邊 実氏と ステージ優勝 マッテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO)



▲GRAND CYCLE TOKYO 出展ブース



▲自転車活用推進議員連盟 前参議院議員 徳茂雅之氏と 個人総合新人賞 ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)



▲自転車月間推進協議会会長 小泉昭男と 個人総合時間賞 ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)



▲日本トーター株式会社 常務取締役 原田 孝雄氏と 個人総合山岳賞 中井唯晶 (シマノレーシング)



▲スターター 自転車月間推進協議会会長 小泉昭男



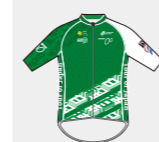
▲チーム総合優勝 チームブリッジレーンと大会実行委員長 栗村修



▲パレード参加者
自転車活用推進議員連盟 徳茂雅之氏
警視庁交通部 交通総務課 平野幸人氏
田中美樹氏
千葉県サイクリング協会 元会長 佐藤明弘氏
東京FM「ツアーオブジャパン」パーソナリティ 野島裕史氏

第8ステージ順位

1位	マッテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO)	2時間14分11秒
2位	リース・プリットン (セントパイロン)	+0秒
3位	岡本卓 (愛三工業レーシングチーム)	+0秒



個人総合時間賞 (グリーンジャージ)

1位	ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)	18時間55分45秒
2位	メルハウィ・ドゥス (トレンガヌ サイクリング チーム)	+2分06秒
3位	ベンジャミン・ダイボール (ヴィクトワール広島)	+2分12秒



個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)

1位	寺田吉騎 (シマノレーシング)	82pt
2位	マッテオ・マルチェッリ (JCL TEAM UKYO)	68pt
3位	ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)	62pt



個人総合山岳賞 (レッドジャージ)

1位	中井唯晶 (シマノレーシング)	32pt
2位	ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)	18pt
3位	ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)	15pt



個人総合新人賞 (ホワイトジャージ)

1位	ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)
2位	ザックアリー・マリッジ (チームブリッジレーン)
3位	マシュー・グリーンウッド (チームブリッジレーン)

団体総合時間賞

1位	チームブリッジレーン
----	------------



Result

個人総合時間賞 (グリーンジャージ)



ジョバンニ・カルポーニ (JCL TEAM UKYO)

JCL TEAM UKYOの選手として、日本で初めて出場するレースということではいい結果をチームにもたらしたいと意気込んで臨みました。平坦なステージがなく、いつもアップダウンが続くハードなレースでした。ヨーロッパと違って周回コースのレースが多かったのですが、これは観戦に来るファンにとってはいいことではないでしょうか。グリーンジャージを着て最終日を終えたことを嬉しく思います。今回のレースを通して、日本のファンの素晴らしいさを知りました。また出場して、総合優勝を目指したいですね。



個人総合時間賞

順位	選手名	チーム	年齢	タイム	タイム差
1	ジョバンニ・カルポーニ	JCL TEAM UKYO	28	18:55:45"	0'00"
2	クドゥス・メルハウィ・ゲブレメディン	トレンガヌ サイクリング チーム	30	18:57:51"	2'06"
3	ベンジャミン・ダイボール	ヴィクトワール広島	35	18:57:57"	2'12"
4	ニコラス・ヴィノクロフ	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	31	18:58:13"	2'28"
5	アドネ・ファン・エングレン	ルージャイ インシユアランス	21	18:58:21"	2'36"
6	ザツカリー・マリッジ	チームブリッジレーン	20	18:58:38"	2'53"
7	小林 海	マトリックスパワータグ	29	18:58:43"	2'58"
8	カーター・ベトルス	ルージャイ インシユアランス	25	18:58:55"	3'10"
9	ドリュエー・モレ	キナンレーシングチーム	27	18:59:00"	3'15"
10	アナトリー・ブディアク	トレンガヌ サイクリング チーム	28	18:59:42"	3'57"
11	マシュー・グリーンウッド	チームブリッジレーン	21	19:00:28"	4'43"
12	宮崎 泰史	キナンレーシングチーム	24	19:01:00"	5'15"
13	レオネル・キンテロ・アルテアガ	ヴィクトワール広島	27	19:02:06"	6'21"
14	サミュエル・ジェンナ	チームブリッジレーン	27	19:02:42"	6'57"
15	山田 拓海	シマノレーシング	22	19:02:50"	7'05"
16	石原 悠希	シマノレーシング	27	19:03:48"	8'03"
17	ルーク・バーンズ	チームブリッジレーン	25	19:03:52"	8'07"
18	ネイサン・アール	JCL TEAM UKYO	35	19:04:16"	8'31"
19	ヒュー・バックジョーンズ	セントパイラン	20	19:05:42"	9'57"
20	山本 大喜	JCL TEAM UKYO	28	19:05:56"	10'11"
21	石上 優大	愛三工業レーシングチーム	26	19:07:12"	11'27"
22	マックス・ウォーカー	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	22	19:08:13"	12'28"
23	ジェシット・アルトゥロ・シエラ・サンチェス	宇都宮ブリッツェン	29	19:08:23"	12'38"
24	アリヤ・フォンサヴァス	ルージャイ インシユアランス	33	19:08:50"	13'05"
25	孫崎 大樹	キナンレーシングチーム	27	19:08:56"	13'11"
26	風間 翔真	シマノレーシング	27	19:09:07"	13'22"
27	ホセ・ビセンテ・トリビオ・アルコレア	マトリックスパワータグ	38	19:12:43"	16'58"
28	小石 祐馬	JCL TEAM UKYO	30	19:13:00"	17'15"
29	ニル・アギレラ	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	19	19:13:36"	17'51"
30	ダヴィデ・トネアッティ	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	23	19:14:00"	18'15"
31	ライアン・カバナ	キナンレーシングチーム	28	19:15:00"	19'15"
32	織田 聖	マトリックスパワータグ	25	19:15:33"	19'48"
33	草場 啓吾	愛三工業レーシングチーム	27	19:15:58"	20'13"
34	谷 順成	宇都宮ブリッツェン	29	19:17:58"	22'13"
35	デylan・ウェストリー	セントパイラン	23	19:18:34"	22'49"
36	床井 亮太	レバンテフジ静岡	25	19:18:46"	23'01"
37	ネリア・ムニエ ソー	NIPPO・EF・マルティエーグ	19	19:18:46"	23'01"
38	シモーネ・ザニーニ	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	20	19:20:51"	25'06"
39	アレクサンドル・ヴィノクロフ	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	21	19:21:30"	25'45"
40	ジョシュア・ラドマン	セントパイラン	19	19:22:18"	26'33"
41	フランシス・コマンセボ・ベレス	マトリックスパワータグ	48	19:23:57"	28'12"
42	森田 叶夢	京都産業大学	19	19:25:59"	30'14"
43	寺田 吉騎	シマノレーシング	22	19:26:54"	31'09"
44	山口 瑛志	レバンテフジ静岡	22	19:27:53"	32'08"
45	岡本 隼	愛三工業レーシングチーム	28	19:29:19"	33'34"
46	今村 駿介	日本ナショナルチーム	26	19:30:45"	35'00"
47	ジェームズ・パニッツァ	チームブリッジレーン	20	19:32:11"	36'26"
48	ルーベン・ダリオ・アコスタ・オスピナ	宇都宮ブリッツェン	27	19:32:59"	37'14"
49	アレクサンドロス・アグロティス	マトリックスパワータグ	25	19:37:50"	42'05"
50	ダニエル・グールド	レバンテフジ静岡	23	19:38:40"	42'55"
51	河野 翔輝	日本ナショナルチーム	24	19:39:01"	43'16"
52	ジェイ・キー	トレンガヌ サイクリング チーム	21	19:39:15"	43'30"
53	ヴァレンティン・ファビアン・ルネ・ミデ	ルージャイ インシユアランス	34	19:40:49"	45'04"

個人総合新人賞 (ホワイトジャージ)



ニコラス・ヴィノクロフ (アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム)

何度も言っていますが、TOJは運営も丁寧ですごくいいレースでした。また近い内に日本でレースができることを願っています。ホワイトジャージは自分にフィットしていると思いますし、このジャージを守り切ることが出来て嬉しいです。富士山ステージはずっと全開で走りましたが、本当にタフな一日でした。ステージ優勝した綿半 信州飯田ステージは自分向きだったと言えますが、ここもまたハードなコースでした。(プロトンで唯一のワールドチーム所属であることを受けて)将来はツールやジロ、ブエルタといったグランツールに出場したい。そして、ステージ優勝を狙ってみたいと思っています。

団体総合時間賞

チームブリッジレーン ジェyson・リグ監督

チームは若いチームです。勝つつもりで日本に来ていたがすべてが良い結果ではなかったがリザルトには反映させていた。TOJは私自身は昔レースに出たこともあり、また参加できる機会を得て選手たちにフィードバックをしました。また来年も来ればぜひ参加したいです。

個人総合ポイント賞 (ブルージャージ)



寺田吉騎 (シマノレーシング)

8日間のレースを走るのは初めてのことで、最初はホワイトジャージやブルージャージを着ることになるなんてまったく想定していませんでした。界国際クリテリウムでのワンツーフイニッシュ、そして堺ステージの2位でチームの士気が高まりました。ポイント賞ジャージを着てレースを終えたことを嬉しく、また同時に驚いてもいます。今大会で満足できたのは、美濃ステージの集団スプリントで3位になったことです(ステージ5位)。一番キツかったのは綿半 信州飯田ステージです。なんとかポイントを獲得しようと思ったのですが、残り1周で遅れました。強化を続けて、来年はちゃんと最後まで残れるようにになりたいと思います。

個人総合山岳賞 (レッドジャージ)



中井唯晶 (シマノレーシング)

山田選手と寺田選手の界国際クリテリウムでのワンツーと、寺田選手の堺ステージ2位でシマノレーシングが波に乗りました。この勢いのまま8日間走り抜けました。僕自身も京都ステージで逃げに乗り、そこで獲得した山岳ジャージを誰にも渡すことなく走りきれました。今はほっとしています。地元に近いこともあり、京都ステージのコースは熟知していて、得意です。ハードだったのは綿半 信州飯田ステージ。自分には厳しいしやりでしたが、ここで一回ポイントを加算できたのは良かったです。

順位	選手名	チーム	年齢	タイム	タイム差
54	武山 晃輔	宇都宮ブリッツェン	26	19:42'30"	46'45"
55	モハメド・ヌル・アイマン・モフド・ザリフ	トレンガヌ サイクリング チーム	26	19:42'34"	46'49"
56	モハンマド・ヌル・アイマン・ロスリ	トレンガヌ サイクリング チーム	25	19:44'29"	48'44"
57	中井 唯晶	シマノレーシング	27	19:44'49"	49'04"
58	ホセ・カスティージョ	ヴィクトワール広島	29	19:44'52"	49'07"
59	高梨 万里王	レバンテフジ静岡	22	19:45'51"	50'06"
60	レイモンド・クレダー	キナンレーシングチーム	34	19:46'23"	50'38"
61	コンフォブ・ティマチャイ	ルージャイ インシユアランス	21	19:46'39"	50'54"
62	リース・プリットン	セントパイラン	25	19:47'47"	52'02"
63	久保田 悠介	ヴィクトワール広島	27	19:47'53"	52'08"
64	藤村 一磨	NIPPO・EF・マルティエーグ	18	19:49'32"	53'47"
65	兒島 直樹	日本ナショナルチーム	23	19:50'04"	54'19"
66	フォン・チュンカイ	宇都宮ブリッツェン	35	19:50'05"	54'20"
67	柴田 雅之	ヴィクトワール広島	29	19:51'21"	55'36"
68	窪木 一茂	日本ナショナルチーム	34	19:53'25"	57'40"
69	マツテオ・マルチェッリ	JCL TEAM UKYO	30	19:53'49"	58'04"
70	中村 圭佑	ヴィクトワール広島	25	19:56'55"	1:01'10"
71	入部 正太郎	シマノレーシング	34	19:57'01"	1:01'16"
72	初川 弘浩	愛三工業レーシングチーム	22	19:58'34"	1:02'49"
73	當原 隼人	愛三工業レーシングチーム	26	19:59'29"	1:03'44"
74	西尾 憲人	愛三工業レーシングチーム	28	20:03'44"	1:07'59"
75	ズラドゥリ・アミン・ズックルナイン	トレンガヌ サイクリング チーム	25	20:05'17"	1:09'32"
76	ウィリアム・ロバーツ	セントパイラン	25	20:05'52"	1:10'07"
77	アッターソン・パンサアード	ルージャイ インシユアランス	22	20:08'15"	1:12'30"
78	石橋 学	JCL TEAM UKYO	31	20:10'50"	1:15'05"
79	山里 一心	NIPPO・EF・マルティエーグ	19	20:19'34"	1:23'49"
80	岡崎 一輝	マトリックスパワータグ	18	20:21'44"	1:25'59"

ポイント賞

順位	選手名	チーム	堺	京都	いなべ	美濃	信州飯田	富士山	相模原	東京	Total
1	寺田 吉騎	シマノレーシング	9	12	7	17	0	8	12	17	82
2	マツテオ・マルチェッリ	JCL TEAM UKYO	8	25	0	10	0	0	0	25	68
3	ジョバンニ・カルポーニ	JCL TEAM UKYO	5	7	30	2	8	0	10	0	62
4	マックス・ウォーカー	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	10	20	0	0	0	1	25	0	56
5	岡本 隼	愛三工業レーシングチーム	0	10	10	5	0	0	12	16	53
6	リース・プリットン	セントパイラン	7	0	0	14	0	0	9	20	50
7	ニコラス・ヴィノクロフ	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	0	5	9	0	25	0	7	0	46
8	クドゥス・メルハウィ・ゲブレメディン	トレンガヌ サイクリング チーム	0	9	8	5	9	0	12	2	45
9	ダヴィデ・トネアッティ	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	0	0	3	0	20	0	14	6	43
10	ライアン・カバナ	キナンレーシングチーム	3	10	1	0	20	8	0	0	42

山岳賞

順位	選手名	チーム	京都	いなべ	美濃	信州飯田	富士山	相模原	Total
1	中井 唯晶	シマノレーシング	10	5	10	7	0	0	32
2	ニコラス・ヴィノクロフ	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	0	0	0	12	6	0	18
3	ジョバンニ・カルポーニ	JCL TEAM UKYO	0	0	0	0	15	0	15
4	入部 正太郎	シマノレーシング	0	0	0	0	0	13	13
5	アドネ・ファン・エングレン	ルージャイ インシユアランス	0	0	0	0	8	5	13
6	クドゥス・メルハウィ・ゲブレメディン	トレンガヌ サイクリング チーム	0	0	0	0	12	0	12
7	マックス・ウォーカー	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	0	0	0	10	0	0	10
8	ベンジャミン・ダイボール	ヴィクトワール広島	0	0	0	0	10	0	10
9	ライアン・カバナ	キナンレーシングチーム	6	0	0	3	0	0	9
10	ルーク・バーンズ	チームブリッジレーン	0	0	0	8	0	0	8

新人賞

順位	選手名	チーム	タイム	タイム差
1	ニコラス・ヴィノクロフ	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	18:58'13"	0'00"
2	ザツカリー・マリッジ	チームブリッジレーン	18:58'38"	0'25"
3	マシュー・グリーンウッド	チームブリッジレーン	19:00'28"	2'15"
4	ヒュー・バックジョーンズ	セントパイラン	19:05'42"	7'29"
5	ニル・アギレラ	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	19:13'36"	15'23"
6	ネリア・ムニエ ソー	NIPPO・EF・マルティエーグ	19:18'46"	20'33"
7	シモーネ・ザニーニ	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	19:20'51"	22'38"
8	アレクサンドル・ヴィノクロフ	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	19:21'30"	23'17"
9	ジョシュア・ラドマン	セントパイラン	19:22'18"	24'05"
10	森田 叶夢	京都産業大学	19:25'59"	27'46"

団体総合時間賞

順位	チーム	タイム	タイム差	順位	チーム	タイム	タイム差
1	チームブリッジレーン	57:00'53"	0:00"	9	ヴィクトワール広島	57:40'26"	39'33"
2	JCL TEAM UKYO	57:02'30"	1'37"	10	セントパイラン	57:43'58"	43'05"
3	ルージャイ インシユアランス	57:05'52"	4'59"	11	愛三工業レーシングチーム	57:44'29"	43'36"
4	キナンレーシングチーム	57:05'52"	4'59"	12	宇都宮ブリッツェン	57:47'25"	46'32"
5	アスタナ カザクスタン ディベロップメント チーム	57:09'13"	8'20"	13	レバンテフジ静岡	58:14'58"	1:14'05"
6	シマノレーシング	57:12'09"	11'16"	14	日本ナショナルチーム	58:16'21"	1:15'28"
7	マトリックスパワータグ	57:23'35"	22'42"	15	NIPPO・EF・マルティエーグ	59:27'52"	2:26'59"
8	トレンガヌ サイクリング チーム	57:27'47"	26'54"	16	京都産業大学	-	-

ポスター
Tour of Japan 2024
8,000km-6200km

チラシ
Tour of Japan 2024
8,000km-6200km

ガイドブック
Tour of Japan 2024
GUIDE BOOK

ツアー・オブ・ジャパン 2024 Webサイト

ツアー・オブ・ジャパン 2024 周年Webサイト

Tour of Japan Official Store

Facebook
twitter
Instagram
YouTube

テレビ・インターネット配信番組

NBS 長野放送 信州飯田
NHK 信州 信州飯田
長野朝日放送 信州飯田
テレビ信州 信州飯田

国内最大規模の自転車ロードレース

KBS 京都 京都
KCN 京都 京都
テレビ静岡 富士山
ジェイコム 地元ナビ神奈川 相模原

YouTube
サイクルモード公式 YouTube

TOJ kids

3年ぶりに復活したTOJキッズの皆さんに
各表彰式でご登壇いただきました。

SAKAI
第1ステージ
堺

KYOTO
第2ステージ
JPF京都

INABE
第3ステージ
いなべ

SHINSHU IIDA
第5ステージ
綿半信州飯田

MINO
第4ステージ
美濃

FUJISAN
第6ステージ
富士山

SAGAMIHARA
第7ステージ
相模原

TOKYO
第8ステージ
SPEEDチャンネル
東京

放送日	番組名	放送局	放送内容	放送波
5月21日	ニュース	CTY	国内最高峰の自転車ロードレース TOJ京都ステージ 4年ぶり復活	ケーブル 三重県北勢
5月23日	ニュース	NBS長野放送	ツアー・オブ・ジャパン堺ステージ模様	地上 長野
5月23日	ニュース	NHK長野	ツアー・オブ・ジャパンいなべステージ模様	地上 長野
5月23日	ニュース	テレビ信州	ヴィクトワール広島 国内最高峰の大会でステージ優勝 1週目からカーター!	地上 長野
5月23日	ニュース	長野朝日放送	南信州を疾走「ツアー・オブ・ジャパン」 名物「焼き肉応援」4年ぶり復活 沿道から熱い声援	地上 長野
5月24日	ニュース	テレビ静岡	ツアー・オブ・ジャパンレース模様	地上 静岡
5月23日	サイクルモード公式チャンネル 第一ステージ堺	テレビ大阪	ツアー・オブ・ジャパン堺ステージレース模様	YouTube
6月1日	週刊地域トピックス	KCN京都	GCN JAPAN	YouTube 京田辺
5月27日	ニュース	KBS京都	ツアー・オブ・ジャパン東京ステージレース模様	ケーブル
未定	Weeklyトピックス	ジェイコム	ツアー・オブ・ジャパン京都ステージレース模様	地上デジタル 堺
6月8日	ジモトトピックス	ジェイコム	ツアー・オブ・ジャパン相模原ステージレース模様	地上デジタル 町田相模原

ラジオ

放送日	番組名	放送局	放送内容	放送波	エリア
5月5日	サイクリスト・ステーション	ツアー・オブ・ジャパン	東京FMIほか23局	レース告知	FM 全国25局
5月12日	サイクリスト・ステーション	ツアー・オブ・ジャパン	東京FMIほか23局	レース告知	FM 全国25局
5月14日	サイクリスト・ステーション	ツアー・オブ・ジャパン	東京FMIほか23局	レース告知	FM 全国25局
5月17日	clap! Go!信州Sports	長野FM	レース告知	FM ローカル	
5月17日	IPPO	静岡放送SBSラジオ	レース告知	FM ローカル	
5月24日	FLAG	FM横浜	レース告知	FM ローカル	
5月21日	いなべステージレース生放送	いなべFM	いなべステージ生放送	FM ローカル	
5月23日	信州飯田ステージレース生放送	飯田FM	信州飯田ステージレース生放送	FM ローカル	
6月15日	サイクリスト・ステーション	ツアー・オブ・ジャパン	東京FMIほか23局	ツアー・オブ・ジャパン2024振り返り1	FM 全国25局
6月22日	サイクリスト・ステーション	ツアー・オブ・ジャパン	東京FMIほか23局	ツアー・オブ・ジャパン2024振り返り2	FM 全国25局

雑誌

Cycle Sports
8月号
エンターテインメントの
楽しさを教えます

Tour of Japan 2024
8,000km-6200km

Cycle Sports
8月号
徹底解説
回復力

サイクルスポーツ6月号
サイクルスポーツ8月号

記者発表



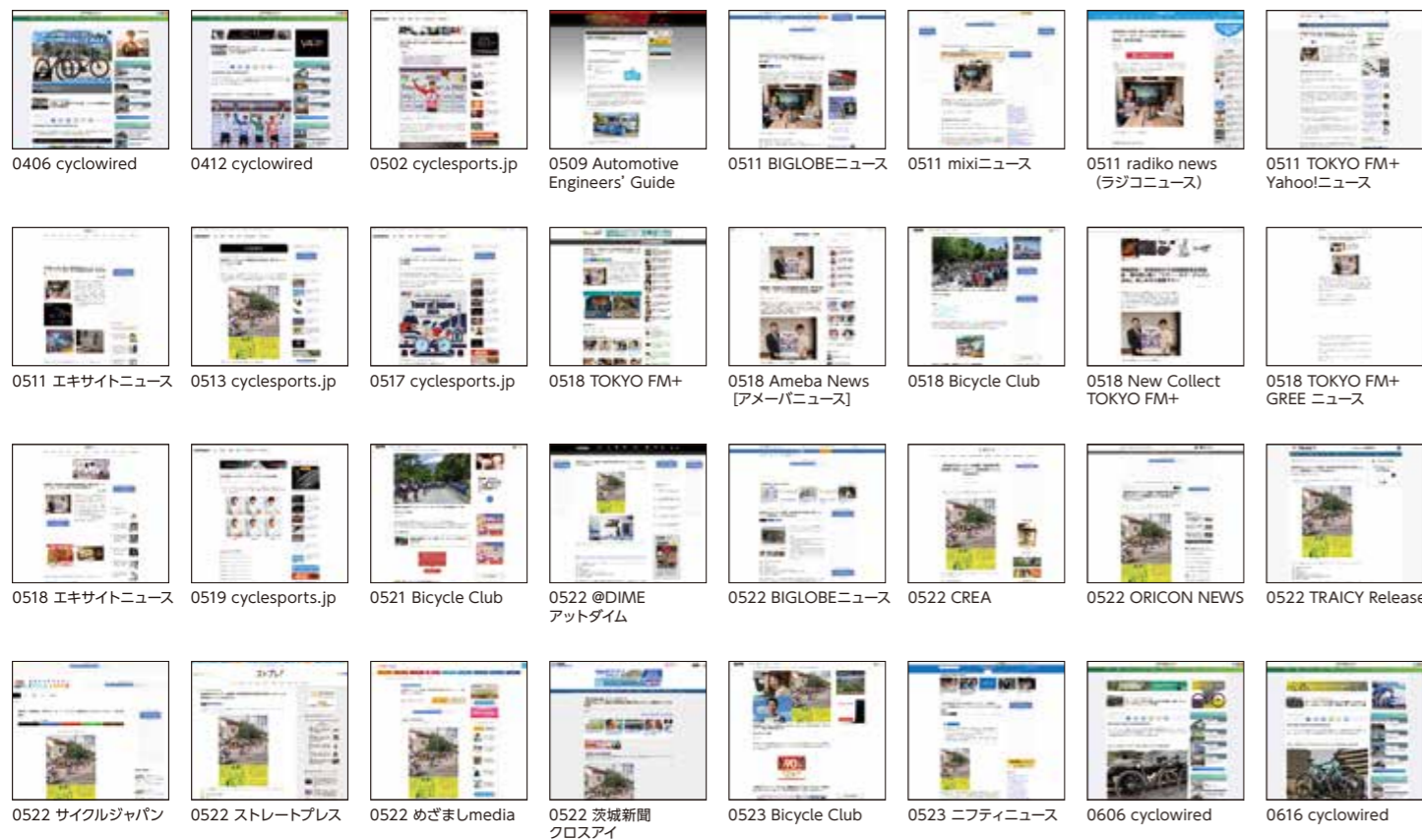
0328 @DIME アットタイム
0328 Bicycle Club
0328 BtoB プラットフォーム 業界チャンネル
0328 NIKKEI COMPASS 日本経済新聞
0328 PRタイムス
0328 ウレぴお総研 funDOrful
0328 さんたつ by 散歩の達人
0328 ジェイビープレス
0328 ストレートプレス
0328 とれまがニュース
0328 プレジデント オンライン
0328 マピオンニュース
0328 岐阜新聞WEB
0328 京都新聞
0328 More CADENCE
0328 信濃毎日新聞 デジタル
0328 読売新聞 オンライン
0328 朝日新聞 デジタルマガジン
0328 品川経済新聞
0328 北日本新聞 webunプラス
0329 cyclowired
0329 ニコニコニュース
0329 リビング東京Web
0409 観光経済新聞

海外



0524 ベルギー Cyclisme
0525 イタリア tuttobiciweb
0525 カザフスタン Kazinform
0526 イタリア Bicisport
0526 カザフスタン Kazinform
0526 コロンビア Mundo Ciclist
0526 ベルギー Cyclisme
0529 イタリア cicloweb

全体



0406 cyclowired
0412 cyclowired
0502 cyclesports.jp
0509 Automotive Engineers' Guide
0511 BIGLOBEニュース
0511 mixiニュース
0511 radiko news (ラジオニュース)
0511 TOKYO FM+ Yahoo!ニュース
0511 エキサイトニュース
0513 cyclesports.jp
0517 cyclesports.jp
0518 TOKYO FM+
0518 Ameba News [アメーバニュース]
0518 Bicycle Club
0518 New Collect TOKYO FM+
0518 TOKYO FM+ GREE ニュース
0518 エキサイトニュース
0519 cyclesports.jp
0521 Bicycle Club
0522 @DIME アットタイム
0522 BIGLOBEニュース
0522 CREA
0522 ORICON NEWS
0522 TRACY Release
0522 サイクルジャパン
0522 ストレートプレス
0522 めざましmedia
0522 茨城新聞 クロスアイ
0523 Bicycle Club
0523 ニフティニュース
0606 cyclowired
0616 cyclowired

3月28日 オンライン記者発表



▲日本ナショナルチーム 窪木一茂選手 (左) とTOJ組織委員会委員長 栗村修氏 (右)

4月3日(水)~6月2日(日) ツアー・オブ・ジャパン2024展示



▲自転車文化センター

5月18日(土) 前日会見



▲前日会見: さかい利晶の杜



▲茶の湯体験



▲会見参加選手 左から
ネイサン・アール (JCL TEAM UKYO)
ニコラス・ヴェイノクロフ(アスタナ カザフスタン ディベロップメント チーム)
マシュー・グリーンウッド (チーム プリッジレオン)
寺田吉騎 (シマノレーシング)

5月18日(土) 各種会議関係



▲TOJ組織委員会委員長 栗村修



▲UCIコミッセルと主催者メンバー



▲UCIコミッセルパネル 逸矢有華氏
ソン・ウン・パク・エドワード氏



▲UCIチーフコミッセル ウェイン・ボマリオ氏



▲ドライバーズミーティング



▲ライセンスコントロール



▲ライセンスコントロール



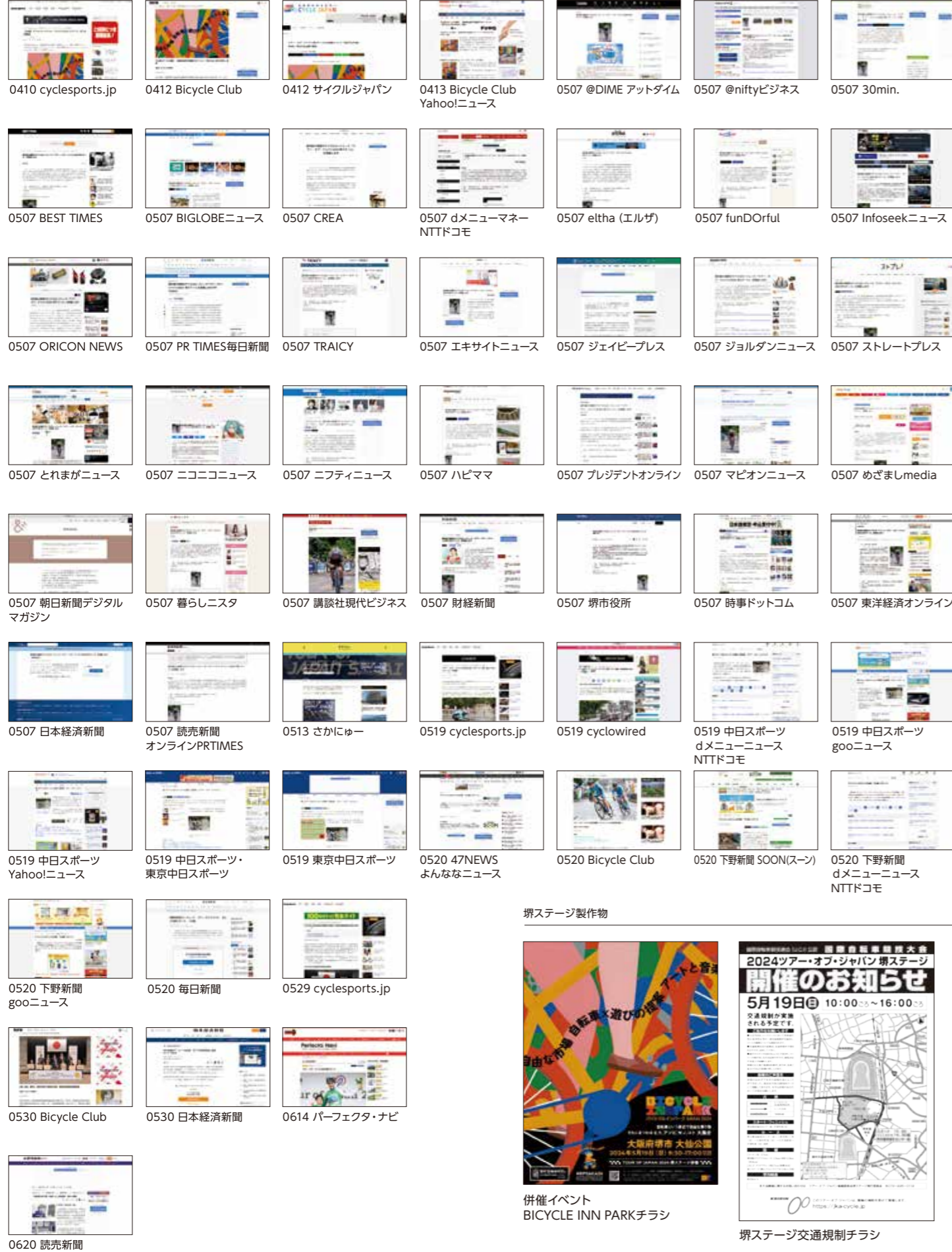
▲監督会議



▲ドライバーズミーティング



▲コミッセル会議



堺ステージ製作物



京都ステージ新聞紙面

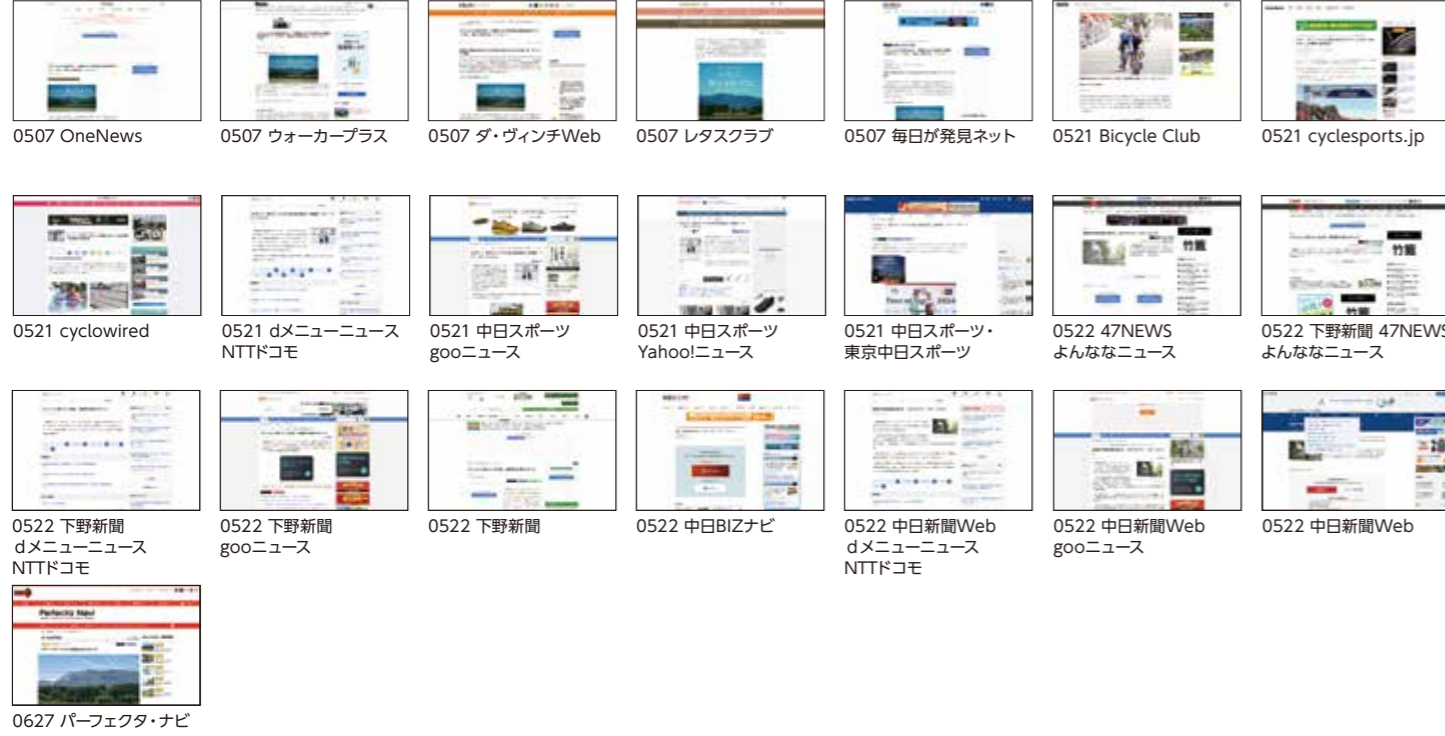


0521 東京中日スポーツ

京都ステージ製作物



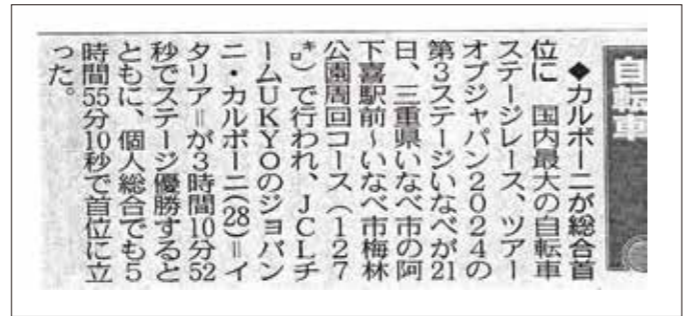
交通規制チラス



いなべステージ新聞紙面



0520 日刊スポーツ



0522 東京中日スポーツ

いなべステージ製作物



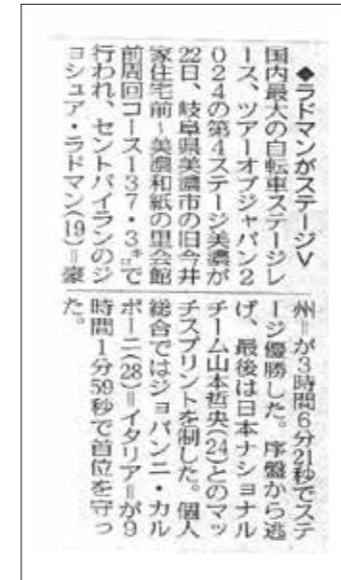
告知チラシ(表)



交通規制チラシ(裏)



美濃ステージ新聞紙面



0523 東京中日スポーツ



0523 中日新聞



0523 中日新聞

美濃ステージ製作物



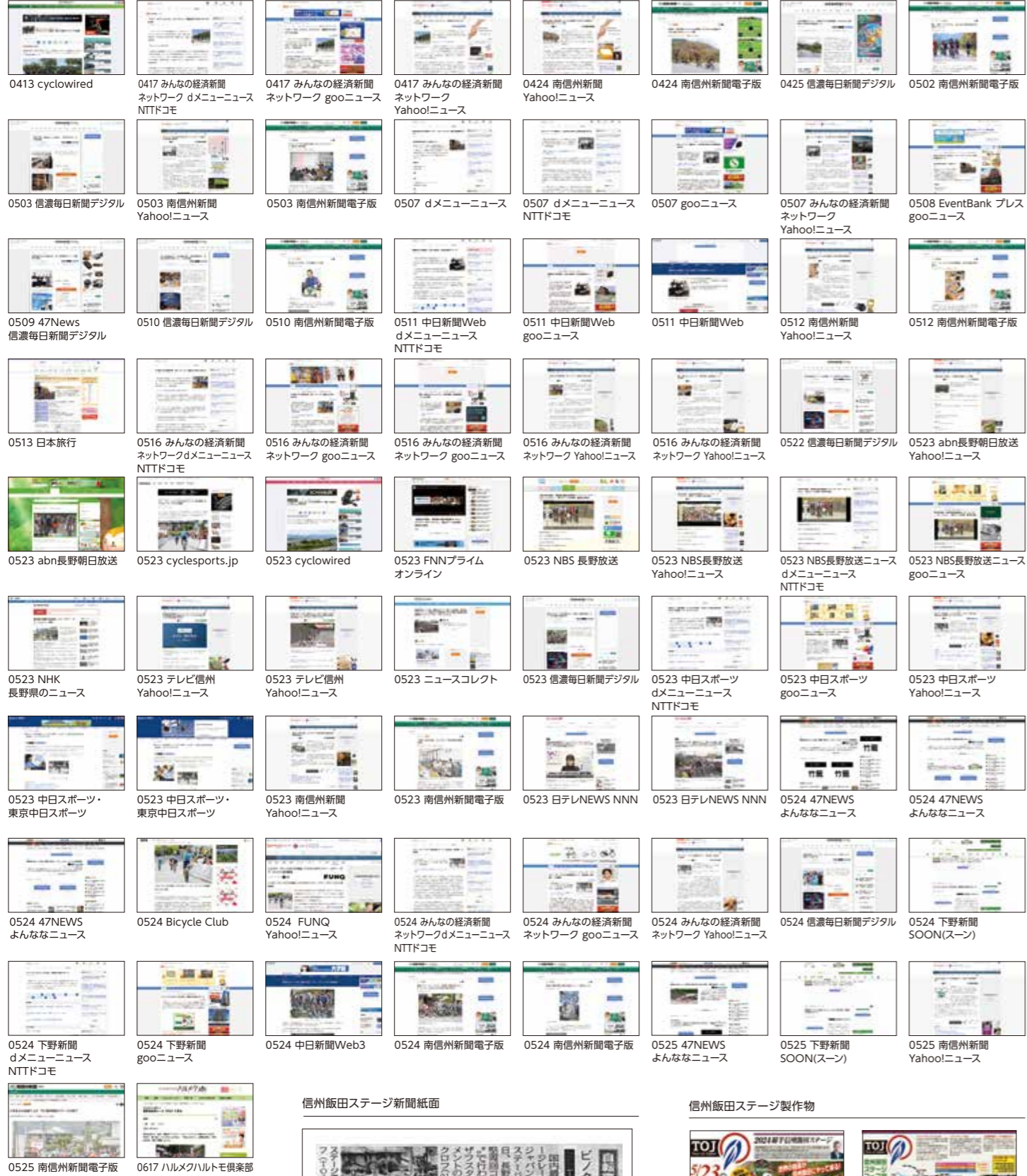
交通規制チラシ1



交通規制チラシ2



迂回路



信州飯田ステージ新聞紙面



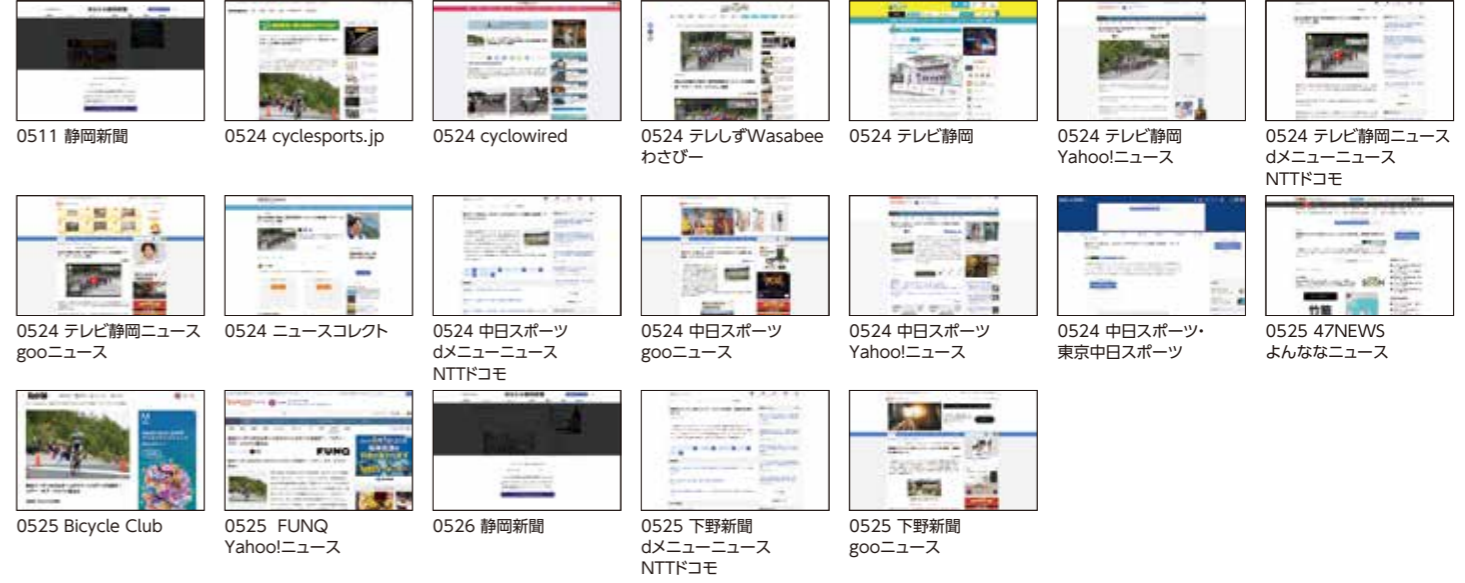
0524 東京中日スポーツ

信州飯田ステージ製作物



告知チラシ(表)

コース紹介(規制チラシ)(裏)



富士山ステージ新聞紙面

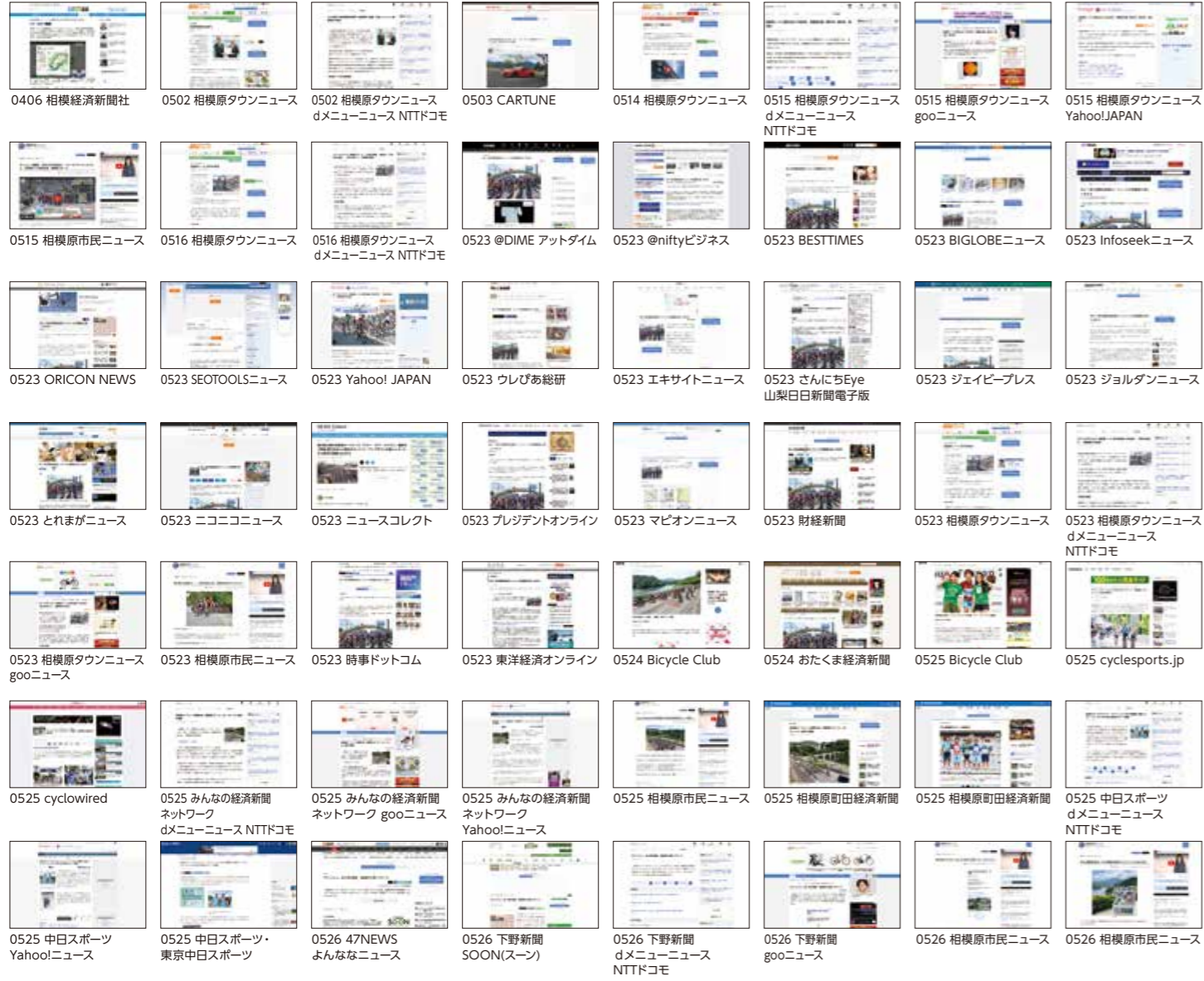


0525 東京中日スポーツ

富士山ステージ製作物



交通管制チラシ

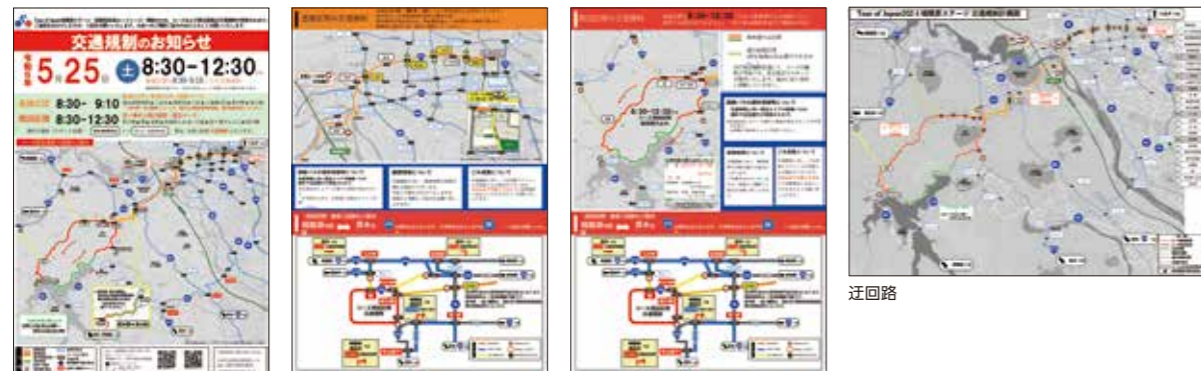


相模原ステージ新聞紙面



0526 東京中日スポーツ

相模原ステージ製作物



交通規制チラシ1

交通規制チラシ2

交通規制チラシ3

迂回路



東京ステージ新聞紙面



0527 東京中日スポーツ

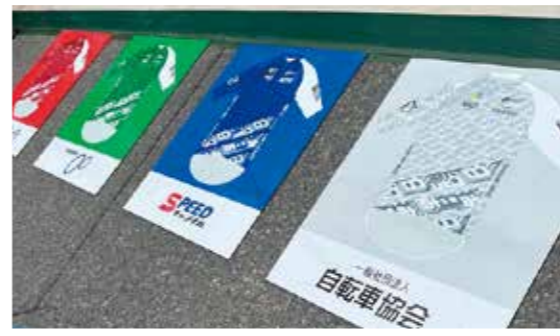
東京ステージ製作物



交通規制チラシ(日本語版)



交通規制チラシ(英語版)







評価報告書

2024 - ツアー・オブ・ジャパン (JPN) - ME



最終報告書

これは本当によく運営されている大会です。安全性は抜群で、事故もありませんでした。運営者は非常に反応が良く、あらゆる要望に応えようと懸命に取り組んでいます。いくつかのチームと話をしましたが、不満はなく、賞賛する声が多かったです。大会のレベルは非常に高く、エキサイティングなコース、レース、そしてコミュニティの参加が盛んです。一般の関心も高く、この大会はラジオ、テレビ、印刷メディアでも取り上げられています。



安全性

安全性は抜群。レース中に注目すべき事故はなかった。

すべてのステージは、レース期間中は閉鎖される大きなサーキットで行われます。これらのサーキットには交通はありません。すべての交差点とサーキットへの他の入口は、マージナルによって覆われています。他の方法で封鎖されています。サーキットの中には歩道内にあるものもあるため、多数のマージナルが設置されています。警察の運搬や民間の運搬バイクもいます。すべてが役割を十分に果たしました。コース上の障害物はすべてパッドでしっかりと保護されており、明確にマークされていました。各ステージの開始前には、安全管理者がその日の緊急的な情報についても最新情報を提供しました。たとえば、下り坂で路面が凍れているなど、注意すべき事項は問題にはなりませんでしたが、しかし、チームにも緊急に情報が伝えられていました。

レースドクターと救急車が迅速に駆けつけました。うまくいきました。観客が1倍増したかと思いますが、その他の事故は発生しませんでした。優良のためのレースを継続したライダーは1人だけでした。



観客とコース

このコースは、さまざまなチャレンジが楽しめる非常に興味深いコースです。観客の関心も高い

ステージはかなりテクニカルで、非常に興味深いです。サーキットであっても、エキサイティングで、さまざまなタイプのライダーに挑戦できます。コースは、特にフィニッシュラインには多数の観客がいます。彼らは本物のファンです。フィニッシュラインには観客が用意されています。



チーム管理

和洋両方の質の高い宿泊施設と食事

主催者はチームとうまくコミュニケーションを取っていました。各ステージの間には移動がありますが、バスと車でうまく管理されています。ホテルの質は高く、食事は和食と洋食の両方で豊富です。私が訪れたチームは皆満足していました。スタートとゴールではチームごとにテントが用意されていました。



テレビ制作

レース中はテレビの放送がよく、中継もよかったです。

テレビ中継は、2台のバイクと数台の固定カメラによって行われました。競技は、毎日終日ライブストリーミングされました。TVのモトは非常に協力的で、競技内でうまく機能しました。また、改善するために作業方法について指導を求めました。必要に応じて、ステージの最後にある放送トラックでテレビ画像を視聴することもできました。

テレビ放送の映像は良好で、カメラバイクはレースの邪魔をすることなく、最高のストーリーを演出するためにどこに行くべきかを知っていました。



組織

非常に良い組織です。応答性が速く、要求された変更をすべて実行するために協力してくれました。素晴らしいチームです。

組織は全員と良好なコミュニケーションを取り、変更や情報の要求は迅速に処理されました。ドライバー、運営スタッフなど、レースレベルで働くほぼ全員がコミッセルのライセンスが必要です。ラジオツアーは英語と日本語で提供され、質の高い情報が提供されました。Moto Informationは概ね英語で機能し、彼の仕事とタイムボードは良好でした。また、レースが複数のグループに分かれたときにグループ構成を提供するために、サーキットのいくつかの固定ポイントに追加の人を配置するのも良いものかもしれません。中立的なサービスが多数あります(車3台とバイク2台)。設備も良く、メカニックも優秀です。新しいステージでは、ライダー3人の後ろに車4台が並ぶことがないように、すぐに前方に位置を変更できるはずです。しかし、大部分では、彼の仕事は良好でした。

給水ゾーンを長くする必要があります。一部のサーキットでは車から給水するのが非常に難しく、給水ゾーンはちょっと短すぎました。リスタートゾーンも少し長くする必要があります。スタッフとコミッセルがこれらのエリアを管理していたのは、安全に管理され、非常に迅速に片付けられたので素晴らしいことでした。

結果は非常に迅速に発表されました。観客のライダーがゴールしてから約10分以内に、ハードコアゴールラインを手配する必要があります。これはすべてのレベルのライダーに適用されます。主催者は、このために各ゴールラインにコミッセルを配置しています。

カットオフタイムは少しわかりにくいですが、全体的にこの方法は問題ありませんが、最終ラップで脱落したライダーがまた努力する必要があるように、ステージごとに全体的なカットオフを追加することも検討します。富士山ステージの開始時に自転車の重量コントロールを行うことをお勧めします。全体的に素晴らしい競争でした。



<https://toj.co.jp/2024>